

高等学校地歴・公民科科目の在り方に関する特別チームにおける検討事項

1. 高等学校の地理歴史科、公民科に置く新科目の内容の検討について

(1) 「歴史総合（仮称）」

- ① 当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか
- ② 歴史の転換等を捉えた学習の在り方
 - ・歴史の転換期の軸
 - ・学習対象となる時代
- ③ 日本と世界の動きの関連付け

(2) 「地理総合（仮称）」

- ① 当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか
- ② 地理教育に求められる今日的要請への対応

(3) 「公共（仮称）」

- ① 当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか
 - ・様々な課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論
- ② 公民教育に求められる今日的課題への対応

2. 高等学校地理歴史科、公民科に置く科目間の関係の整理（高等学校における各科目の標準単位数を含む）について

(1) 「歴史総合」と「地理総合」の地理歴史科としてのまとめ

- (2) 新設する科目（「歴史総合」「地理総合」「公共」）について、高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計（高大接続の観点を含む）

3. 小・中学校社会科等と高等学校地理歴史科、公民科との内容の系統性について

- (1) 小学校社会科・中学校社会科の各分野（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）と高等学校の関係教科・科目の内容の系統性

4. その他

- (1) 適切な指導がなされるための要件（周知・広報、研修等）

社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける検討事項

1. 社会・地理歴史・公民科を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・社会・地理歴史・公民科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・特にii)に関わって、どのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むかについて
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた社会・地理歴史・公民科において育成すべき資質・能力及び内容の系統性（例えば、小・中学校における世界に関する学習の扱い、政治的教養を育むための教育の扱いなど）について
 - ・高等学校における新設科目等の具体的な内容について

2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき社会・地理歴史・公民科の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき社会・地理歴史・公民科の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ（及び論点整理補足資料スライド26）参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

社会・地理歴史・公民ワーキングとりまとめ（たたき台案）

1 現行学習指導要領の成果と課題

- 社会科、地理歴史科、公民科においては、社会的事象に関心を持って多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させること等に重点を置いて、現行の学習指導要領に改訂され、その充実が図られてきているところである。
- 一方で、主体的に社会の形成に参画しようとする態度等の育成や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象について考察し表現すること等については、更なる充実が求められるところである。
- 特に高等学校教育においては、自分の参加により社会をよりよく変えられると考えている若者の割合が国際的に見ても低いこと、時代の変化に耐えてきた先哲の考え方を習得し、それを手掛かりとして自己の生き方や考え方等を錬磨することに課題があること、近現代に関する学習の定着状況が低い傾向にあること、課題解決的な学習を取り入れた授業が十分に行われていないこと等が指摘されているところである。
- また、これからの時代に求められる資質・能力を視野に入れれば、国家及び社会の形成者として必要な知識や思考力等を基盤として選択・判断等を行い、課題を解決していくために必要な力や、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決していく力を、全ての高校生に共通に育んでいくことが求められる。

2 育成すべき資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について

(1) 教科等の特質に応じ育まれる見方や考え方

- 各教科等を学ぶ意義は、各教科等において身に付ける資質・能力の三つの柱で整理される。これらの資質・能力の中核となるのが、各教科等の本質に根ざした見方や考え方である。「見方や考え方」とは、様々な事象を捉える教科等ならではの視点と、教科等ならではの思考の枠組みである。各教科等の多様な「見方や考え方」が総合的に育成されることによって、社会や世界の様々な事象を捉えたり関わったりすることが可能になり、また、多様な「見方や考え方」を統合的に働かせるようにすることに

よって、一つの事象を多様な角度から捉えたり考えたりすることができるようになる。

○ 社会科、地理歴史科、公民科において培う見方や考え方については、これまでの学習指導要領において、社会生活に対する正しい見方、考え方の基礎（昭和33年版小学校）、社会的なものの見方や考え方（平成元年版、10年版小学校）等と、呼称を変えながらもその重要性が指摘され、平成20年の改訂では中央教育審議会答申の「社会科、地理歴史科、公民科の改善の基本方針」において、社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する方向が示された。一方で、中学校社会科においては地理的な見方や考え方の基礎、現代社会を捉える見方や考え方の基礎と、分野ごとの説明がなされてきたが、社会的な見方や考え方の全体像が示されるには至っていなかった。

○ 次期改訂においては、これらの変遷や趣旨を踏まえ、社会的な見方や考え方の性格を以下のように明確化し、その充実を図ることが考えられる。

- ・社会的な見方や考え方は、深い学びを実現するための思考力や判断力の育成や獲得する知識の構造化に不可欠であること、主体的に学習に取り組む態度や学習を通して涵養される自覚や愛情などにも作用することなどを踏まえると、資質・能力全体の要であると考えられる。

- ・社会的な見方や考え方は、小学校社会科、中学校社会科地理的分野及び歴史的分野、高等学校地理歴史科における「社会的事象の見方や考え方」と中学校社会科公民的分野における「現代社会を捉える見方や考え方」、高等学校公民科における「人間と社会の在り方を捉える見方や考え方」とで構成されると考えられる。

- ・社会的な見方や考え方は、課題解決的な学習における追究の視点や方法であり、小、中、高等学校と校種が上がるにつれて追究の視点やそれを生かした問いの質が高まることで成長するものであると考えられる。

○ これらの社会科、地理歴史科、公民科における見方や考え方を整理すると、例えば以下のように整理することが考えられる。

- ・小学校社会科では、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して社会的事象を見出し、比較・分類したり総合したりして、国民（人々）生活と関連付けて考察、構想することが考えられる。

- ・中学校社会科地理的分野では、絶対的、相対的など位置や空間的な広がりに関わる視点に着目して社会的事象を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて考察、構想することが考えられる。

- ・ 中学校社会科歴史的分野では、時代の転換など推移や変化に関わる視点に着目して社会的事象を見出し、比較して相違や共通性を明確にして、原因と結果を関連付けて考察、構想することが考えられる。
- ・ 中学校社会科公民的分野では、対立と合意、効率と公正などの現代社会を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出し、それらの解決に向けて選択、配分など、課題の解決に用いることが必要な概念と関連付けて考察、構想することが考えられる。

(2) 小中高等学校を通じて育成すべき資質・能力の整理と、教科等の目標の在り方

- 社会科、地理歴史科、公民科で育成を目指す資質・能力は、「情報を伝え合ったり、情報に基づき思い合わせたりするようになるとともに、公共の施設を大切にしたり、国旗や国際理解への意識等が芽生えるようになる」などといった幼児教育で育まれる資質・能力と関わりがあると考えられる。
- また、小学校低学年の生活科で目指す「自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などとの関わりに関心を持ち、地域のよさに気づき、愛着を持つことができるようになるとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようになる」などといった資質・能力ともつながるものと考えられる。
- 次期改訂に向けては、幼児期に育まれたものや、生活科をはじめとする小学校低学年における学習を通じて身に付けた資質・能力の上に、小中高等学校を通じて育成すべき資質・能力を、三つの柱に沿って明確化することが求められる。
- 社会科、地理歴史科、公民科において育成する資質・能力は、従前の教科目標の趣旨を勘案するとともに、改めて三つの柱に整理し直す観点から、社会科においては「公民的な資質・能力」、地理歴史科、公民科においては「公民としての資質・能力」とすることが考えられる。公民的な資質・能力とは、「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者を目指す資質・能力」であり、公民としての資質・能力とは、それを発展させ選挙権を有する18歳に求められる「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力」であると考えられる。

「公民としての資質・能力」は、現行学習指導要領公民科の目標に示されている「平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」ことの趣旨を一層明確にするとともに、人、商品、資本、情報、技術などが国境を越えて自由に移動したり、企業など国家以外の様々な集合体の役割が増大したりしてグローバル化が一層進むことが予測されるこれからの社会において、教育基本法、学校教育法の規定を踏まえ、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことの大切さへの意識を持つことを期待してこのような表現とすることが考えられる。

- これまで学習指導要領解説（小学校社会科）で「公民的資質」として説明してきた「平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚」「自他の人格を互いに尊重し合うこと」「社会的義務や責任を果たそうとすること」は公民としての資質・能力、公民的な資質・能力に引き継がれるものと考えられる。
- 公民的な資質・能力及び公民としての資質・能力は、以下の三つの柱に描かれる資質・能力の全てが結び付いて育まれることを通して養われるものであると考えられる。
- なお、小・中学校社会科で扱う学習対象は「社会的事象」であるが、地理歴史科及び公民科で扱う学習対象は、社会の在り方や人間としての在り方生き方に関わるものを含み、社会的事象のみでないことを考慮すると、社会科、地理歴史科、公民科の全体から見た場合の学習対象としては「社会的事象等」と表現することが適当であると考えられる。
- 資質・能力の柱の第一は、社会科、地理歴史科、公民科で獲得する知識・技能である。「知識」は、社会的事象等に関する知識であり、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関わる知識と、主として社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識とに分けて捉えることができると考えられる。それは、社会生活に関する理解、我が国や世界の地理に関する理解、我が国や世界の歴史に関する理解、現代社会の政治、経済、国際関係に関する理解などを通して身に付けた知識である。「技能」は、これまで小学校社会科においては「観察・資料活用の技能」、中学校社会科、高等学校地理歴史科及び公民科においては「資料活用の技能」としてきた。これらはいずれも観察や資料活用を通して社会的事象に関する情報を収集する・読み取る・まとめる技能であり、社会科で育てる技能は「社会的事象について調べまとめる技能」として整理することが考えられる。
- 資質・能力の柱の第二は、社会科、地理歴史科、公民科で育成する思考力、判断力、表現力等である。また、社会的な見方や考え方は思考力や判断力を育成する要であると考えられることから、社会科、地理歴史科、公民科で育成する「思考力、判断力」は、社会的な見方や考え方をを用いて、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力、社会的な見方や考え方をを用いて社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力であると考えられる。また、社会科、地理歴史科、公民科で育成する「表現力」は、資料などを使った多様な表現方法を視野に入れつつも、教科の特質を踏まえるとともに言語活動の充実を視野に入れて重点化すれば、考察したことや構想したことを説明する力、考察したことや構想したことを基に議論する力であると考えられる。これら考察する力、構想する力、説明する力、議論する力は、課題解決の学習過程において相互に関連性を持ち、かつ質的に向上しながら育成されるものと考えられる。

- 資質・能力の柱の第三は、社会科、地理歴史科、公民科で養われる学びに向かう力・人間性である。それは、「主体的に学習に取り組む態度」と、「多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など」であると考えられる。「主体的に学習に取り組む態度」のうち、学んだことを社会生活に生かそうとしてさらに調べたり分かったりしたりする態度や、社会に見られる課題についてよりよい社会を目指して解決しようとする態度などは、よりよい社会の形成に主体的に参画しようとする態度であると考えられる。

(3) 資質・能力を育む学習過程の在り方

- 三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、課題解決的な学習の一層の充実が求められる。それらはいずれも知識、概念や技能を習得・活用して思考・判断・表現しながら課題を解決する一連の学習過程において効果的に育成されるものと考えられるからである。社会科においては従前から、小学校で問題解決的な学習の充実、中学校で適切な課題を設けて行う学習の充実が求められており、課題解決的な学習の充実はそれらの趣旨を踏襲する方向であると考えられる。
- 学習過程の例としては、大きくは課題把握、課題追究、課題解決の三つが考えられる。また、その三つのそれぞれを構成する学習場面として、動機付けや方向付け（課題把握）、情報収集や考察・構想（課題追究）、まとめや振り返り（課題解決）などが考えられる。なお、これらは一例であり、他にも様々考えられる。また、中学校社会科や高等学校地理歴史科、公民科においては、自ら問いを立てたり、仮説や追究方法を考えたりするなど課題解決的な学習の課程をより発展させた学習過程も考えられる。それは、学習場面を細分化せずに生徒の主体性をさらに生かすことを想定したものであり、学習内容や社会に見られる課題等に応じて展開されるものと考えられる。
- 「論点整理」で示されたアクティブ・ラーニングの三つの視点との関係性を考えると、
i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程は上記の学習過程全体を通して、
ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程は主として情報収集や考察・構想、あるいはまとめの学習場面において、
iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程は、主として動機付けや方向付け、振り返りなどの学習場面において、実現することなどが考えられる。

(4) 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

- 観点別学習状況の評価の観点は、各教科等における目標と表裏一体の関係にあることから、社会科、地理歴史科、公民科においても評価の観点の在り方は、育成すべき

資質・能力と一貫性を持ったものに改善することが求められる。三つの柱に沿った資質・能力と観点別学習状況の評価の観点との対応関係で考えると、「知識や技能」に関する評価の観点としては「社会的事象(等)についての知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」に関する評価の観点としては「社会的事象(等)についての思考・判断・表現」、「学びに向かう力・人間性」に関する評価の観点としては、社会科、地理歴史科、公民科においては、学習対象である社会的事象等に積極的に関わろうとすることが重要であることから、この資質・能力の趣旨を総合的に評価するため、「主体的に社会的事象(等)に関わろうとする態度」とすることが適当であると考えられる。

- 「社会的事象(等)についての知識・技能」は、学習成果として身に付けている状況の評価する趣旨の観点であり、例えば「社会的事象(等)についての知識」と「社会的事象(等)について調べまとめる技能」というように、それぞれの観点の趣旨を明確にして評価することが考えられる。「社会的事象(等)についての知識」については、前述のように学習指導要領の内容に応じて社会生活に関するもの、我が国や世界の地理に関するもの、我が国や世界の歴史に関するもの、現代社会の政治、経済、国際関係に関するものなどについての知識であり、前述したように主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関わる知識と、主として社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識とに分けて捉えることができると考えられる。それらについて学習過程に応じて「～は～である」と理解し、その知識を身に付けているかどうかを評価することが考えられる。

また、「社会的事象(等)について調べまとめる技能」については、手段を考えて課題解決に必要な社会的事象等に関する情報を収集する技能、収集した情報を社会的な見方や考え方に沿って読み取る技能、読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能の三つに分けて捉えることができると考えられる。それらを身に付けているかどうかを学習過程に応じて、例えば、必要な情報を選んでいるか、資料の特性に留意しているか、といった規準で評価することなどが考えられる。

- 「社会的事象(等)についての思考・判断・表現」は、課題解決に向けて追究している状況の評価する趣旨の観点である。具体的には、社会的な見方や考え方をを用いて社会的事象の様子や仕組み、課題等を見出し、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察している状況、社会的な見方や考え方を生かして社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想している状況、考察したことや構想したことを説明している状況、考察したことや構想したことを基に議論している状況などを評価することが考えられる。それらについて学習過程に応じて、多面的・多角的に考察しているかどうか、身に付けた判断基準、複数の立場や意見などを踏まえて構想しているかどうか、適切な資料・内容や表現方法を選び、主旨が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的、効果的に説明しているかどうか、合意形成を視野に入れながら、他者の主張を踏まえたり取り入れたりして自分の考えを再構成しながら議論しているかどうか、といった規準で評価することが考えられる。

- なお、社会的事象等を取り扱う場合には、児童生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが重要である。特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなどの偏った取扱いにより、児童生徒が多面的・多角的に考察し、事実を客観的に捉え、公正に判断することを妨げることはないように留意したり、客観的かつ公正な資料によって指導するよう留意したりすることが求められる。そのため、諸資料を適切に活用する技能や多様な資料から考察・表現するために適切な題材等を扱った教材を確保することが期待される。
- 「主体的に社会的事象(等)に関わろうとする態度」は、学習対象や学習内容に対する主体性を評価する趣旨の観点であり、学習対象としての社会的事象等について主体的に調べたり分かろうとしたりしている状況、学習上の課題や社会に見られる課題を意欲的に解決しようとしている状況の評価することが考えられる。前者は、問いや追究の見通しを持っているかどうか、振り返り学んだことの意味に気付いているかどうか、身に付けた見方や考え方を新たな問いに生かしているかどうか、学んだことを社会生活に生かそうとしているかどうか、といった規準で評価することが考えられる。後者は、粘り強く試行錯誤しながら解決しようとしているか、他者と協働してよりよい結果を得ようとしているか、よりよい社会を目指して解決しようとしているか、といった規準で評価することが考えられる。

3 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

(1) 科目構成の見直し（高等学校地理歴史科、公民科）

(高等学校公民科において育成すべき資質・能力)

- 高等学校公民科においては、小中高等学校を通じて育成すべき資質・能力を整理するとともに、現行学習指導要領における教科目標の趣旨を勘案しつつ、「広い視野に立って、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うために、社会的な見方や考え方を培い、三つの柱に沿って整理した資質・能力を育成する」ことが求められると考えられる。
- その上で、育むべき資質・能力の第一としては、国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済等に関する理解、調査や諸資料から社会的事象や人間としての在り方生き方に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせることが考えられる。
- 育むべき資質・能力の第二としては、現代の諸課題について概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、構想したりする力を養うとともに、合意形成を視野に入れながら、社会的事象や課題について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性など

を指標にして議論する力を養うことが考えられる。

- 育むべき資質・能力の第三としては、人間と社会の在り方に関わる課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めるようにすることなどが考えられる。

(公民科の科目構成)

- 「論点整理」における検討も踏まえ、公民科の科目構成を見直し、共通必修科目としての「公共（仮称）」を設置し、その上に選択履修科目「倫理（仮称）」及び「政治・経済（仮称）」を設置することが適当である。その際、「公共（仮称）」と同様に1科目でもって公民科の教科目標を達成することのできる現行の選択必修科目「現代社会」については、「公共（仮称）」における三つの大項目相互の関係や学習内容において共通する点も多く、その発展と捉えることもできることから科目を設置しないことが考えられる。
- 新必修科目「公共（仮称）」では、第一に現代社会の課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を通して習得し、第二に選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、現代の社会的事象や現実社会の諸課題について、協働的に考察し、合意形成を視野に入れながら構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論する力を養うとともに、第三に持続可能な社会づくりの主体となるために、様々な課題の発見・解決に向けた探究を行い、「平和で民主的な国家及び社会の形成者」として必要な資質・能力を養うことが考えられる。
- そのために、科目を三つの大項目で構成することとし、第一の「公共の扉」では、今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえて、社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる、「行為の結果における個人の幸福とともに、社会全体の幸福を重視する考え方」と「（行為の結果よりも、）行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」を理解させるとともに、個人と社会との関わりにおいて、公共的な空間における基本的原理について考えさせることを通して、人間としての在り方生き方や公共的な空間の在り方を考える上での基盤となる、人間と社会の在り方を捉える見方や考え方を培うことが考えられる。
- また、この大項目で指導したことが、以後の学習に活用されていくことができるよう十分に留意して指導計画を作成し、それに基づいた学習を展開することが求められる。

なお、この大項目では指導のねらいを明確にした上で、例えば、囚人のジレンマ、

共有地の悲劇、最後通牒ゲーム等の思考実験や、環境保護、生命倫理等について概念的に考える学習活動を取り入れたり、民主主義、自由・権利と責任・義務、相互承認など、公共的な空間における基本的原理に関わる事象を取り上げたりすることが考えられる。

- 第二の「自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために」では、小・中学校社会科で習得した知識等を基盤に、人間と社会の在り方を捉える見方や考え方を働かせながら、公共的な空間を形作る政治、経済、法などのシステムの基本を理解させるとともに、自立した主体として生きるために必要な知識を身に付けさせることが考えられる。併せて、そうしたシステムを通じてどのように社会に参画し他者と協働していくかを考察、追究させることが考えられる。
- また、この大項目では指導のねらいを明確にした上で、例えば、政治的主体としては、政治参加、世論の形成、地方自治、国家主権（領土を含む）、国際貢献など、経済的主体としては、職業選択、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなど、法的主体としては、司法参加など、様々な情報を発信・受信する知的主体としては、情報モラルなどが、また複数の主体が複合的に関連し合う題材としては、財政と税、社会保障、市場経済の機能と限界、雇用、労働問題（労働関係法制を含む）、契約、消費者の権利や責任、多様な契約、メディア、情報リテラシー、男女共同参画などの題材を取り扱うことが考えられる。その際、選挙管理委員会、消費者センター、弁護士などの関係する専門家・機関と連携・協働したり、討論、模擬裁判などの学習活動を効果的に取り入れたりすることが考えられる。
- その際、第三の「持続可能な社会づくりの主体となるために」で課題を探究する学習を行うことに留意して課題意識の醸成に努めるとともに、個別的・網羅的に題材を取り扱うことなく、政治的主体、経済的主体、法的主体、様々な情報を発信・受信する知的主体の相互の有機的な関連を図り、これらの主体のうち二つ、あるいは三つの主体が複合的に関連し合う題材については複数の観点から取り扱うことが考えられる。また、これら様々な主体となる個人を支える家族・家庭や地域等にあるコミュニティを基盤に、自立した主体として社会に参画し、他者と協働することの意義について考えさせることが考えられる。
- 第三の「持続可能な社会づくりの主体となるために」では、前二つの大項目における学習を踏まえて、持続可能な地域、国家、国際社会づくりに向けた役割を担う主体となる意欲を育むことなどをねらいとして現実社会の諸課題、例えば、公共的な場づくりや安全を目指した地域の活性化、受益と負担の均衡や世代間の調和がとれた社会保障、文化と宗教の多様性、国際平和、国際経済格差の是正と国際協力などを探究する学習を行い、その解決に向けて、各人がどのように主体的に関わっていくかを考えるという構成が考えられる。

- 「公共（仮称）」の指導に当たり、人間としての在り方生き方や、社会の在り方に関わって取り上げる事象については、多様な見方や考え方ができることから、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが求められる。その際、特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど、特定の見方や考え方に偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察し、事実を客観的に捉え、公正に判断することを妨げるものがないよう留意するとともに、客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意することが必要である。
- なお、「公共（仮称）」においては、キャリア教育の観点から、インターンシップの準備と振り返りを行うことなどを通して、経済、法、情報発信などに対して主体的に参画する力を育む中核的機能を担うことが求められている。
- 新選択科目「倫理（仮称）」は、共通必履修科目「公共（仮称）」で習得した個人が判断するための手掛かりとなる考え方を基盤とし、古今東西の幅広い知的蓄積を通してより深く思索するための概念や理論を理解し、それらを活用して現代の倫理的課題を探究するとともに、人間としての在り方生き方についてより深く自覚し、人格の完成に向けて自己の生き方の確立を図る主体を育む「倫理」に発展させる。そのために、思想史の断片的な知識の暗記中心から、「倫理的価値の理解」を基にした「考える倫理」に転換することが考えられる。
- 新選択科目「政治・経済（仮称）」は、小・中学校社会科で身に付けた現代社会を捉える見方や考え方や共通必履修科目「公共（仮称）」で身に付けた人間と社会の在り方を捉える見方や考え方を基盤に、「公共（仮称）」で習得した選択・判断の基準となる概念等を活用し、現代日本の政治や経済の諸課題や国際社会における日本の役割など、正解が一つに定まらない現実社会の諸課題を協働して探究し、国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」に発展させることが考えられる。

（２）資質・能力の整理と学習過程の在り方を踏まえた教育内容の構造化

- 社会科、地理歴史科、公民科の内容については、三つの柱に沿った資質・能力や学習過程の在り方を踏まえて、それらの趣旨を実現すべく、次の二点から改めて構造化することが求められる。
- 視点の第一は、社会科における内容の枠組みや対象に基づいた構造化である。小学校社会科では、中学校社会科の分野別構造とは異なり、社会的事象を人間（人々）の働きや生活を軸にして時間的（歴史的）にも空間的（地理的）にも、あるいは相互関係的にも捉えるべく総合化された内容として構成されている。そのため教師は、指導している内容が社会科全体においてどのような位置付けにあるか、中学校社会科とどのようにつながるかといったことを意識しづらいという点が課題として指摘されて

いる。小学校社会科の特性を生かしつつも中学校社会科の分野別の内容との接続が見えるようにするためには、①地理的環境と人々の生活、②歴史と人々の生活、③現代社会の仕組みや働きと人々の生活という三つの枠組みに位置付ける整理が考えられる。また、①、②は空間的な広がり念頭に地域、日本、世界と、③は社会的事象について経済・産業、政治及び国際関係と、対象を区分する整理も考えられる。

- 視点の第二は、社会的な見方や考え方に基づいた構造化である。社会的な見方や考え方は追究の視点や方法であり、社会的な見方や考え方をういた学習は、時間、空間などの追究に視点に着目して事実等に関する知識を習得し、それらを比較、関連付けなどして考察・構想し、特色や意味、理論などの概念等に関する知識を身に付ける学習であるということが出来る。このことを踏まえて、学習指導要領の内容について、例えば追究の視点や方法と具体的な事実等に関する知識や概念等に関する知識を構造化することが考えられる。

(3) 現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し

- 社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力を養うためには、児童生徒が生きる現在及び将来の社会の変化を見据え、その課題について指導することが必要である。将来の予測が困難な時代であるが、グローバル化、持続可能社会の構築、情報化等による産業構造の変化など将来に繋がる現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直しを図ることが必要である。

(グローバル化への対応)

- グローバル化する国際社会を主体的に生きるための資質・能力の育成の視点から、日本と世界の生活・文化の多様性の理解や、地球規模の諸課題や地域的な諸課題の解決について、時間的・空間的など多様な視点から考える力を身に付けていくことが求められる。
- 小学校社会科においては、市役所など行政機関が行う地域社会の国際化への対応や、世界の歴史に関する地図などを使った我が国の歴史的事象の理解など、世界の国々との関わりへの関心を高めるよう教育内容を見直すことなどが考えられる。
- 中学校社会科歴史的分野では、高等学校で新必修科目「歴史総合(仮称)」が設置されることを受け、我が国の歴史事象に直接関わる世界の歴史に加え、間接的な影響を与えた世界の歴史の学習を充実させ、より広い視野を持って、我が国の歴史の理解を促すことが考えられる。そのために、例えば、世界で行われていた異なる文化との接触や交流が日本に影響を及ぼしていることに着目して、ムスリム商人の活動をはじめとした交流などを取り上げることなどが考えられる。

(持続可能な社会の形成への対応)

- グローバル化への対応の観点も含め、持続可能な社会づくりの視点が一層大切になると考えられる。例えば、中学校社会科地理的分野においては、引き続き「世界の諸地域」の学習においてその地理的な認識を深めることを重視し、その際、国境を越えた地球規模の課題等を主題として取り上げ、持続可能な社会づくりの視点を生かした学習を充実させることなどが考えられる

(情報化の進展等による産業構造の変化への対応)

- 前回の学習指導要領の改訂においては、知識基盤社会の時代に対応した改訂が行われた。前回の改訂以降、この知識基盤社会の流れはますます加速しており、社会が変化し、それに伴い産業構造の変化が生じている。例えば情報化の進展は、地理的・空間的な制約を軽減させている。また、ネットワークの発達世界的な情報量の増大を起こしており、そこに、I o T、ビッグデータ、人工知能などと結び付き、付加価値を生み出す新しい産業や社会の創出が生み出されつつある。

このため、情報化など知識基盤社会化による産業や社会の構造的な変化に関する取扱いを充実させることが考えられる。

(防災・安全教育への対応)

- 未曾有の大災害となった東日本大震災を含め多くの自然災害が発生する我が国では、災害に備え、災害を乗り越えるために、防災教育を含む安全教育の充実が求められている。例えば、小学校社会科においては、災害時における地方公共団体の働き、地域の人々の工夫や努力、地理的・歴史的観点を踏まえた災害に関する理解、防災情報に基づく適切な行動の在り方等に関する指導の充実が考えられる。また、中学校社会科では、地理的分野において地域社会における安全、防災上の災害要因や事故防止の理解、空間情報に基づく危険の予測に関する指導の充実が、公民的分野において安全・安心な社会づくりや、防災情報の発信・活用に関する指導の充実が、また高等学校公民科においては、防災関係制度も含め安心・安全な地域づくりへの参画など現代的課題等の理解に関する指導の充実が考えられる。これらの教育内容は、我が国の国土において発生する自然災害を対象とすることから、我が国の国土の様子を理解する学習の充実も考えられる。

(選挙権年齢の18歳への引き下げに伴う政治参加への対応)

- 選挙権年齢が18歳に引き下げられることも踏まえ、高等学校の公民科への学びにつながるよう、小学校や中学校における政治や社会に積極的に参画する資質・能力の一層の育成が求められている。例えば、小学校社会科において、地方公共団体の政治の働き、選挙の意味などについての充実を図るよう教育内容を見直すことなどが考えられる。中学校社会科では、歴史的分野の学習においては、例えば、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどに着目して、古代ギリシャ・ローマの社会やアメリカ合衆国建国における自由や平等への動きなどを取り上げ参政権の扱いを充実させること、公民的分野の学習において政治参加の扱いを充実させることなどが考えられる。

4 学習・指導の改善・充実や教材の充実

(1) 特別支援教育の充実、個に応じた学習の充実

- 児童生徒の資質・能力の育成を目指し、教科等の目標を達成するために、十分な学びが実現できるよう、学習課程で考えられる「困難さの状態」に対する「配慮の意図」と「手立て」を示していくことが大切である。
- 例えば、地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合には、読み取りやすくするために、地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したり、掲載されている情報を精選して、視点を明確にするなどの配慮が考えられる。
- また、社会的事象等に興味・関心が持てない場合には、その社会的事象等の意味を理解しやすくするため、社会の動きと身近な生活がつながっていることを実感できるよう、特別活動などとの関連付けなどを通じて、実際的な体験を取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明し、安心して学習できるよう配慮が考えられる。
- 学習課程における動機付けの場面において学習問題に気付くことが難しい場合には、社会的事象を読み取りやすくするために、写真などの資料や発問を工夫すること、また、方向付けの場面において、予想を立てることが困難な場合には、見通しがもてるよう事実を短冊に示し、学習順序を考えられるようにすること、そして、情報収集や考察、まとめの場面において、どの観点で考えるのか難しい場合には、ヒントが記入されているワークシートを作成することなどの配慮が考えられる。

(2) 「深い学び」、「対話的な学び」、「主体的な学び」に向けた学習・指導の改善・充実

- アクティブ・ラーニングでは、「深い学びの過程」、「対話的な学びの過程」、「主体的な学びの過程」の実現が大切であり、「～法」、「～型」といった特定の学習活動や学習スタイルの固定化や普及を求めているものではなく、指導方法の不断の見直し、改善を求めていることを踏まえることが大切である。
- 深い学びの過程の実現のためには、社会的な見方や考え方をを用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた課題解決的な学習の充実が不可欠である。具体的には、教科・科目及び分野の本質に根ざした追究の視点と、それを生かした学習課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成を視野に入れながらの議論などが一連の学習過程でつながり、主として用語・語句などを

含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが考えられる。

- 対話的な学びの過程の実現については、特に小学校社会科においては「学び合い」、「関わり合い」等の言葉で研究され、学習過程を通した様々な学習場面で充実が図られてきており、そのよさを踏襲していくことが求められる。また、実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べる、実社会の人々の話を聞いたり意見交換をしたりして共に課題やその解決について考えるといった活動も一定の広がりを見せており、中学校社会科、高等学校地理歴史科、公民科においてもその特質に応じてそれぞれ今後の一層の充実を期待するところである。その一方で、話し合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらないといった課題が指摘される所であり、深い学びとの関わりに留意し、その改善を図ることが考えられる。
- 主体的な学びの過程の実現については、児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが求められる。そのためには、動機付けとして学習対象に対する関心や課題意識を持つようにすることが、方向付けとして仮説や学習計画を立てたり調査方法や追究方法の吟味をしたりすることがそれぞれ考えられる。また、学習したことを振り返って、自分の学びの意味に気付いたり新たな課題（問い）を持ったり、学んだことを社会生活に生かそうとしたりすることも主体的な学びにつながると考えられる。そのためには、単元等を通した学習過程の中で、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童生徒の表現を促すようにすることなどが考えられる。
- また、主体的な学びや対話的な学びの過程で、ICTを活用することも効果的であると考えられる。例えば、児童生徒の興味・関心に基づきインターネット等を用いて情報を収集したりする活動や、調べたり考えたりしたことを大型ディスプレイなどを用いて発表したり、互いの情報を交流したりする活動等が考えられる。

5 必要な条件整備等について

- 社会科、地理歴史科、公民科において、2. で述べた資質・能力の育成を図るためには、外部人材や関係諸機関、資料館や博物館、図書館との連携、ICTの活用、教員研修などの条件整備が考えられる。
- 教科の内容に関係する専門家や関係諸機関等との連携・協働も、社会との関わりを意識した課題解決的な学習活動を充実させるために重要である。例えば小学校社会科においては、地域の人々の安全や健康な生活、良好な生活環境を守るための諸活動に関わる人々、伝統と文化や自然などの地域の資源を保護・活用している人々、産業に

従事する人々、政治の働きに関わる関係諸機関など、実社会で働く人々と連携した学習が大切である。中学校社会科、高等学校地理歴史科、公民科においても同様であり、科目や分野の特質や学習内容等に応じた専門家や関係諸機関と連携・協働することが考えられる。また、博物館や資料館、図書館などの公共施設を活用することも引き続き大切である。

- また、教員を対象にした研修の充実も求められる。論点整理で示されたアクティブ・ラーニングについては、特定の学習活動や学習スタイルの固定化や普及を求めているものではなく、指導方法の不断の見直し、改善を求めていることから、小・中・高等学校の各段階において研修を深めていく必要がある。

特に、新たに構成が見直される高等学校の地理歴史科、公民科においては、教育委員会、教育センター等のもとより、各学校においても、社会科、地理歴史科、公民科を通して育成すべき資質・能力を踏まえて養われる社会的な見方や考え方の捉え方についての周知、地理歴史科、公民科の共通必修科目及び選択科目で育成すべき資質・能力及びそれぞれの教科・科目の目標や内容の周知とともに、それを実現するための授業設計の在り方等についての研修を深めることが考えられる。

【高等学校】

地理歴史科

- ◇広い視野に立って、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うために、社会的な見方や考え方を培い、以下の三つの資質・能力を育成する。
- 日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 地理や歴史に関する諸事象について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。
- 地理や歴史に関する事象について課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。

公民科

- ◇広い視野に立って、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うために、社会的な見方や考え方を培い、以下の三つの資質・能力を育成する。
- 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済等に関わる諸課題に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 現代の諸課題について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、構想したりする力、合意形成を視野に入れないながら構想したことを議論する力を養うようにする。
- 人間と社会の在り方に関わる課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めるようにする。

【中学校】社会科

- ◇広い視野に立って、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者を目指す公民的な資質・能力を養うために、社会的な見方や考え方を培い、以下の三つの資質・能力を育成する。
- 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題について構想したりする力、考察・構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。
- 社会的事象について、課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。
- 主体的に社会の形成に参画しようとして、資料から読み取った情報に基づいて考察し表現したりするなどの課題解決的な学習の充実を図る。
- ◎地理的分野では、地理的技能的の育成を一層重視するとともに、持続可能な社会づくりの観点から様々な課題を考察させ、歴史的分野では、グローバル化に対応する観点から世界の歴史の扱いを充実させ、公民的分野については、社会参画への手掛かりを得させるために身に付けた概念を現実の社会的事象と関連付けて理解させる指導の充実を図る。

【小学校】社会科(第3～6学年)

- ◇グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者を目指す公民的な資質・能力を養うために、社会的事象の見方や考え方を培い、以下の三つの資質・能力を育成する。
- 地域や我が国の地理的環境、社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化、それらと人々の生活との関連について理解するとともに、調査や諸資料から情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 社会的事象の特色や意味などについて多角的に考える力、社会への関わり方を選択・判断する力を養うようにする。
- 社会的事象について、課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに、多角的な考察や理解を通して涵養される地域の歴史や愛情、我が国の国土や歴史に対する愛情、地域社会の一員としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚を養うようにする。
- 社会的事象から学習問題を見出し、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返るなど、問題解決的な学習の充実を図る。
- ◎世界の国々との関わりや我が国の政治の動きへの関心を高める学習、社会に見られる課題を把握して、社会の発展を考える学習の充実を図る。災害における地方公共団体の働き、地域の人々の工夫や努力、地理的・歴史的観点を踏まえた災害に関する理解、防災情報に基づく適切な行動の在り方等に関する指導の充実を図る。




【小学校】生活科(第1, 2学年)

- 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などとの関わりに関心をもち、地域のよさに気づき、愛着を持つことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。
- 身近な人々、社会及び自然との関わりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活することができるようにする。
- 身近な人々、社会及び自然に活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気づいたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。




幼児教育

- よいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりの大切さが分り守るようになる。
- 情報を伝え合ったり、情報に基づき思い合わせたりするようになるとともに、公共の施設を大切にしたり、国旗や国際理解への意識等が芽生えるようになる。
- 身近な事象に興味や好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気づいたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになる。




① 社会的な見方や考え方をを用いて，社会的事象(等)の意味や意義，特色や相互の関連を考察する力

・社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連について，概念等を活用して多面的・多角的に考察できる	  
・社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できる	
・社会的事象の意味，特色や相互の関連を多角的に考察できる	



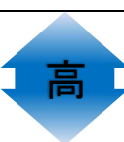
② 社会的な見方や考え方をを用いて，社会に見られる課題を把握し，その解決に向けて構想する力

・社会に見られる複雑な課題を把握して，身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる	  
・社会に見られる課題を把握して，解決に向けて複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できる	
・社会に見られる課題を把握して，解決に向けて社会への関わり方を選択・判断できる	




③ 考察したこと，構想したことを説明する力

・適切な資料・内容や表現方法を選び，社会的事象等についての自分の考えを効果的に説明できる	  
・主旨が明確になるように内容構成を考え，社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる	
・根拠や理由を明確にして，社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる	

④ 考察したこと，構想したことを基に議論する力

・合意形成を視野に入れながら，社会的事象等について構想したことを，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論できる	  
・他者の主張を踏まえたり取り入れたりして，社会的事象についての自分の考えを再構成しながら議論できる	
・他者の主張につなげたり，立場や根拠を明確にしたりして，社会的事象についての自分の考えを主張できる	

*参考 学習の見通しを持ち追究の結果を評価する力

・追究の過程や結果を評価し，不十分な点を修正・改善することができる	  
・追究の結果を振り返り，学んだことの成果等を自覚できる	
・学習問題（課題）を把握し，追究の見通しを持つことができる	

社会, 地理歴史, 公民で育成すべき資質・能力の整理 (たたき台)

	知識や技能 (何を知っているか, 何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること, できることをどう使うか)	学びに向かう力・人間性 (どのように社会, 世界と関わりよりよい人生を送るか)
小学校社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に関する理解 (地域や我が国の国土の地理的環境, 現代社会の仕事や働き, 地域や我が国の歴史, それらと人々の生活との関連) ・社会的事象について調べまとめる技能 (社会的事象に関する情報を適切に集める・読み取る・まとめる技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の特色や相互の関連, 意味を多角的に考える力, 社会に見られる課題を把握して, 社会への関わり方を選択・判断する力 ・思考・判断したことを説明する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 (環境保全, 自然災害防止, 産業の発展, 情報化の進展, 先人の業績や文化遺産, 我が国の政治の働き, 世界の国々との関わり) ・学習問題や社会に見られる課題を意欲的に解決しようとする態度 ・多角的な考察や理解を通して涵養される自覚や愛情など (地域社会の一員としての自覚, 地域社会に対する誇りと愛情, 我が国の国土に対する愛情, 我が国の歴史や伝統を大切に, 国を愛する心情, 世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚)
中学校社会	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と歴史や現代社会の政治, 経済, 国際関係に関する理解 ・社会的事象について調べまとめる技能 (調査や諸資料から, 社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意味や意義, 特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり, 社会に見られる課題を把握して, 解決に向けて複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり, それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 (我が国の国土や歴史に対する愛情, 他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚) ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (我が国の国土や歴史に対する愛情, 他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚)
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土とともに世界の諸地域における地理に関する理解 (日本や世界の地域構成, 日本を含む世界の環境と生活の多様性, 州単位の世界地誌, 地方単位の日本地誌, 身近な地域の調査) ・地図や景観写真などの諸資料から, 地理に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる事象の意味や意義, 特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり, 地域に見られる課題を把握して, 複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力 ・趣旨が明確になるように内容構成を考え, 自分の考えを論理的に説明したり, それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本や世界の諸地域, 自分たちが生活している身近な地域に関する社会的事象について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・地域の地理的な諸課題を意欲的に解決しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (身近な地域や我が国の国土に対する愛情, 世界各地の異なる多様な生活文化を尊重しようとする自覚)
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の特色を踏まえた我が国の歴史(直接的な関わりや間接的な影響を及ぼす世界の歴史を含む)に関する理解 (歴史上の人物との文化遺産, 伝統と文化の特色, 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらまし) ・年表などの諸資料から, 歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史に関わる事象の意味や意義, 特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり, 歴史に見られる課題を把握して, 複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力 ・趣旨が明確になるように内容構成を考え, 自分の考えを論理的に説明したり, それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上の諸事象や身近な地域の歴史, 他民族の文化や生活に関する社会的事象について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・歴史上の諸事象から見出した課題を意欲的に解決しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (歴史上の人物と文化遺産を尊重することの大切さについての自覚, 我が国の歴史に対する愛情や国民としての自覚, 国際協調の精神)
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を捉える概念的枠組みの理解 ・現代社会の政治, 経済, 国際関係に関する理解 (現代社会と文化, 現代社会を捉える見方や考え, 市場の働きと経済, 国民の生活と政府の役割, 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則, 世界平和と人類の福祉の増大) ・統計や新聞などの諸資料から, 現代の社会的事象に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意味や意義, 特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり, 現代の諸課題について公正に判断したりする力 ・他者の主張を踏まえたり取り入れたりして思考・判断したことを説明したり, それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会的事象について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 (社会生活における物事の決定の仕方, 現実の政治, 個人, 企業及び団や地方公共団体の経済活動, 現実の国際関係) ・現代社会に見られる課題の解決に向けて意欲的に考察・構想し, 説明・議論しようとする態度 (他者と協働して考え, 社会に参画しようとする) ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (自国を愛しその平和と繁栄を図ることや, 各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚)

62	知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力・人間性 (どのように社会、世界と関わりよりよい人生を送るか)
高等学校 地理歴史科	<ul style="list-style-type: none"> ・日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関する理解 ・社会的現象等について調べまとめめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理や歴史に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、課題の把握、解決に向けて構想したりする力 ・考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理や歴史に関わる諸事象等について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・課題(学習上の課題、社会に見られる課題)を意欲的に追究したり探究したりしようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚)
地理総合	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模の自然システムや社会・経済システムに関する理解 ・調査や地図や統計などの諸資料から、地理に関する情報を、地理情報システムなどをを用いて効果的に収集する・読み取る・まとめめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、地域という枠組みの中で概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、地域に見られる課題の把握、解決に向けて構想したりする力 ・考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模の自然システムや社会・経済システムについて主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・持続可能な社会づくりに向けて、地球的、地域的課題を意欲的に追究しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など
地理に関わる 探究科目	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の構造や変容に関する理解 ・調査や地図や統計などの諸資料から、地理に関する情報を、地理情報システムなどをを用いて効果的に収集する・読み取る・まとめめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、系統地理的あるいは地誌的に概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、地域に見られる課題の把握、解決に向けて構想したりする力 ・考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の構造や変容について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・持続可能な社会づくりに向けて、世界や国土の在り方を意欲的に探究しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など
歴史総合	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的な諸課題の歴史的背景や、近現代の歴史の考察に関する理解 ・諸資料から歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、現代的な課題の把握、解決に向けて構想したりする力 ・考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的な諸課題の歴史的背景について、主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・持続可能な社会づくりに向けて、世界や日本の在り方について歴史的な観点から意欲的に探究しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など
日本史に関わる 探究科目	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の歴史の展開について、歴史を構成する諸要素・諸領域からの総合的な理解 ・多様な資料から我が国の歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の歴史に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題の把握、解決に向けて構想したりする力 ・考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の歴史の展開について、主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・持続可能な社会づくりに向けて、歴史の総合的な理解を踏まえて、地域や日本、世界の在り方を意欲的に探究しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など
世界史に関わる 探究科目	<ul style="list-style-type: none"> ・諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開の考察に関する理解 ・諸資料から世界の歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸地域世界の歴史に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、歴史の大きな枠組みに関する概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題の把握、解決に向けて構想したりする力 ・考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開について、主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・持続可能な社会づくりに向けて、歴史の大きな枠組みと展開についての理解を踏まえ、世界や日本の在り方を意欲的に探究しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など

	知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力・人間性 (どのように社会、世界と関わりよりよい人生を送るか)
高等学校 公民科	<ul style="list-style-type: none"> ・諸課題を捉え考察し、国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる概念や理論の理解 ・倫理的主体、政治的主体、経済的主体、法的主体、様々な情報を発信・受信する知的主体、持続可能な社会づくりの主体に関する理解 ・社会的事象等について効果的に調べまとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸課題について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力 ・合意形成を視野に入れながら、社会的事象や課題について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と社会の在り方に関わる事象や課題について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・現実社会の諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、説明・議論することを通して社会に参画し、よりよい社会を形成しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚など
公共	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸課題を捉え考察し、国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる概念的な枠組みの理解 ・倫理的、法的、政治的、経済的主体等に関する理解 ・諸資料から、倫理的、法的、政治的、経済的主体等となるために必要な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、現実の社会的事象や現実社会の諸課題の解決に向けて多面的・多角的に考察したり、構想したりする力 ・合意形成を視野に入れながら、社会的事象や課題について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の在り方や人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・現実社会の諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、説明・議論することを通して社会に参画し、よりよい社会を形成しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚など
倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するために必要な概念や理論の理解 ・諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力 ・現代の倫理的諸課題を解決するために概念や理論を活用し、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・現代の倫理的諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、説明・対話することを通して、他者や社会と積極的に関わりながらよりよく生きる自己を形成しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についてのより深い自覚など
政治・経済	<ul style="list-style-type: none"> ・正解が一つに定まらない、現実社会の複雑な諸課題の解決策を探究するために必要な概念や理論の理解 ・政治や経済などに関わる諸資料から、現実社会の諸課題の解決に必要な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる概念等を活用して、社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に解決の在り方を構想する力 ・構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて議論し、合意形成に向かう力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の在り方に関わる事象や課題について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・現実社会の諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、説明・議論することを通して社会に参画し、よりよい社会を形成していく態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについてのより深い自覚など

技能の例（小・中・高等学校）

<p>事象等に 関する課題 解決に必要 な社会的 技能</p>	<p>【1】調査活動を通して ○野外調査活動 ・調査の観点(数、量、配置等)に基づいて、現地の様子や実物を観察し情報を集める ・景観のスケッチや写真撮影等を通して観察し、情報を集める ・地図を現地に持って行き、現地との対応関係を観察し、情報を集める ○社会調査活動 ・行政機関や事業者、地域住民等を対象に聞き取り調査、アンケート調査などを行い、情報を集める 【2】諸資料を通して ○資料の種類 ・地図(様々な種類の地図)や地球儀から、位置関係や形状、分布、面積、記載内容などの情報を集める ・年表から、出来事やその時期、推移などの情報を集める ・統計(表やグラフ)から傾向や変化などの情報を集める ・新聞、図書や文書、音声、画像(動画、静止画)、現物資料などから様々な情報を集める</p>	<p>○その他 ・模擬体験などの体験活動を通して人々の仕事などに関する情報を集める ・博物館や郷土資料館等の施設、学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して映像、読み物や紀行文、旅行経験者の体験記など様々な情報を集める ・コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、目的に応じて様々な情報を集める 【3】情報手段の特性や情報の正しさに留意して ・資料の表題、出典、年代、作成者などを確認して情報を集める ・情報手段の特性に留意して情報を集める ・情報発信者の意図、発信過程などに留意して情報を集める</p>
<p>能や考 え方に 沿って 読み取 る技 能</p>	<p>【1】情報全体の傾向性を踏まえて ・位置や分布、広がり、形状などの全体的な傾向を読み取る ・量やその変化、区分や移動などの全体的な傾向を読み取る ・博物館や郷土資料館等の展示品目の配列から、展示テーマの趣旨を読み取る 【2】必要な情報を選んで ○事実を正確に読み取る ・形状、色、数、種類、大きさ、名称などに関する情報を読み取る ・方位、記号、高さ、区分などを読み取る(地図) ・年号や時期、前後関係などを読み取る(年表) ○有用な情報を選んで読み取る ・学習上の課題の解決につながる情報を読み取る ・諸情報の中から、目的に応じた情報を選択して読み取る</p>	<p>【3】複数の情報を見比べたり結び付けたりして ・異なる情報を見比べ(時期や範囲の異なる地域の様子など)たり、結び付け(地形条件と土地利用の様子など)たりして読み取る ・同一の事象に関する異なる種類の資料(グラフと文章など)の情報を見比べたり結び付けたりして読み取る ・同種の資料における異なる表現(複数の地図、複数のグラフ、複数の新聞など)を見比べたり結び付けたりして読み取る 【4】資料の特性に留意して ・地図の主題や示された情報の種類を踏まえて読み取る ・歴史資料の作成目的、作成時期、作成者を踏まえて読み取る ・統計等の単位や比率を踏まえて読み取る</p>
<p>向読み 取った まとめる 情報を 課題解決 に</p>	<p>【1】基礎資料として ・聞き取って自分のメモにまとめる ・地図上にドットでまとめる ・数値情報をグラフに転換する(気温図など) 【2】分類・整理して ・項目やカテゴリなどに整理してまとめる ・順序や因果関係などで整理して年表にまとめる ・位置や方位、範囲などで整理して白地図上にまとめる ・相互関係を整理して図(イメージマップやフローチャートなど)にまとめる ・地理情報システム(GIS)などを用いて、デジタル化した情報を統合したり、編集したりしてまとめる</p>	<p>【3】情報を受け手に向けた分かりやすさに留意して ・効果的な形式でまとめる ・主題に沿ってまとめる ・レイアウトを工夫してまとめる ・数値情報を主題図に変換する(階級区分図など)</p>

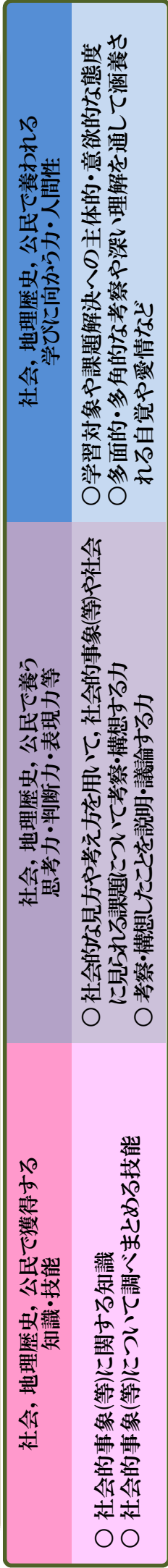
情報を収集する技能

情報を読み取る技能

情報をまとめる技能

社会, 地理歴史, 公民における資質・能力の構造化のイメージ (たたき台)

グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成



* 丸番号は便宜的に付けたもの

① 収集し, 読み取った情報を組み合わせて
考察・構想し, 説明・議論する

② 社会的な見方や考え方に沿って情報を
収集する, 読み取る, まとめ

○ 社会的現象(等)について調べまとめめる技能
(社会的現象(等)に関する情報を収集する・読み取る・まとめめる技能)

○ 社会や社会的現象(等)に関する知識
・ 社会生活に関する理解
・ 我が国や世界の地理に関する理解
・ 我が国や世界の歴史に関する理解
・ 現代社会に関する理解

○ 時間(歴史的), 空間(地理的), 相互関係(事象, 人, 社会)等に着目して社会的現象(等)を見出し, 社会的現象(等)の意味や意義, 特色や相互の関連を考察する力, 社会に見られる課題の解決に向けて構想(選択・判断)する力
○ 考察したことや構想したことについて, 説明したり議論したりする力

⑤ 理解した概念, 理論を使って
考察・構想し, 説明・議論する

⑥ 考察・構想することで理解できる
⑦ 見方や考え方をを用いて概念を形成する

⑧ 学んだことを社会生活に生かそうとすることで
「社会に参画しようとする態度」が養われる

⑨ 主体的に調べ知識を獲得する

⑩ 技能を生かして主体的に調べる

③ 意欲的に考察・構想し, 説明・議論する

④ 社会に見られる課題を意欲的に解決しようとする
ことで「社会に参画しようとする態度」が養われる

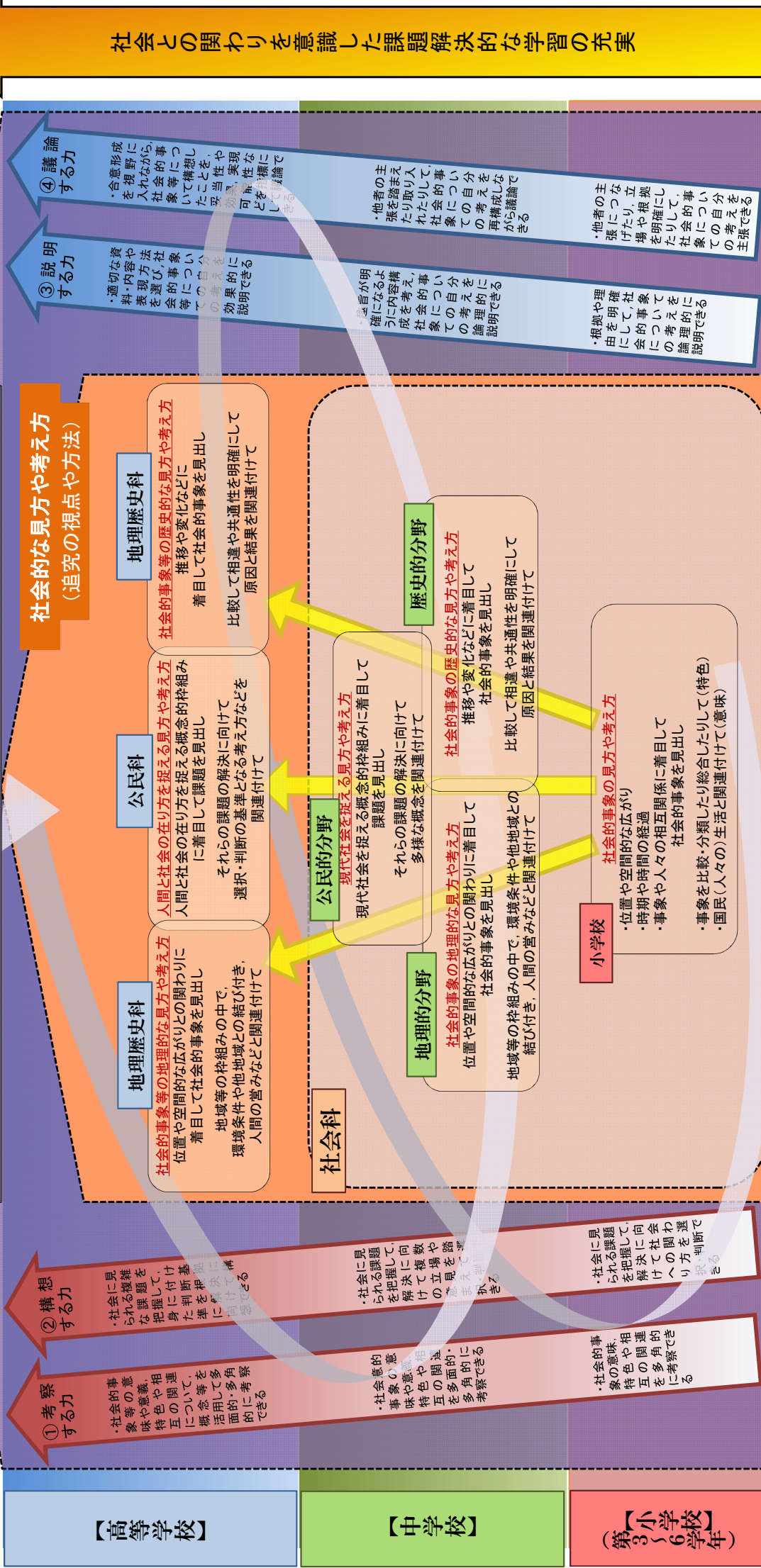
○ 学習対象(社会的現象(等))について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度
○ 課題(学習上の課題, 社会に見られる課題)を意欲的に解決しようとする態度
○ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など

「社会的な見方や考え方や思考力、判断力、表現力等」イメージ（たたき台）

思考力、判断力、表現力等

社会的な見方や考え方をを用いて、社会の在り方や社会的事象(等)の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力(①)
社会的な見方や考え方をを用いて、社会に見られる課題を把握して、それらの解決に向けて構想する力(②)
考察したことや構想したことを説明する力、議論する力(③④)

※「社会的な見方や考え方は、小・中・高等学校の各「見方や考え方を総称する呼称である。」



社会との関わりを意識した課題解決的な学習の充実

伝える、相互交流する、振り返るなどの表現

思考力、表現力の基礎の育成

比較する、分類する、関連付けるなどの思考

感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由に言い、つくったりなどする

身近な物や遊具に興味を持って関わり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ

生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心を持つ

社会的な見方や考え方 (追究の視点や方法) の例 (たたき台)

平成28年4月27日
教育課程部社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料8

※ 社会的な見方や考え方は、小・中・高等学校の各「見方や考え方を総称する呼称であり、社会的現象(等)の「追究の視点や方法」である

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

考えられる追究の視点例

- 位置や空間的な広がり
地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、土地利用など
- 時期や時間の経過
時代、起源、由来、背景、変遷、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性など
- 事象や人々の相互関係
工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、連携、対策、事業、役割、影響、多様性と共生(共に生きる)など

社会的現象の見方や考え方

位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総論として
国民(人々の)生活と関連付けて

に着目して社会的現象を見出し

追究の方法

社会的現象の特色や相互の関連を多角的に考察する力

考察

構想

社会に呈される課題について、社会の関わり方を選択・判断する力

地理的分野

- 位置や分布に関わる視点
絶対的、相対的
規則性、傾向性、地域差 など
- 場所に関わる視点
自然的、社会的 など
- 人間と自然の相互依存関係に関わる視点
環境依存性、伝統的、改善、保全 など
- 空間的相互依存作用に関わる視点
関係性、相互性 など
- 地域に関わる視点
一般的共通性、地方的特殊性 など

社会的現象の地理的な見方や考え方

位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象を見出し
地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて

追究の方法

社会的現象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察する力

考察

構想

地域に呈される課題に向けて、複数の立場や意見を踏まえ選択・判断する力

歴史的分野

- 年代の基本に関わる視点
時期、年代、時代区分 など
- 諸事象の推移や変化に関わる視点
変化、発展、時代の転換 など
- 諸事象の特色に関わる視点
関連、共通性、時代の特色 など
- 事象相互の関連に関わる視点
原因、背景、ねらい
結果、影響、意味、意義 など

社会的現象の歴史的な見方や考え方

推移や変化などに着目して社会的現象を見出し
比較して相違や共通性を明確にして
原因と結果を関連付けて

追究の方法

時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力

考察

構想

歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえ選択・判断する力

公民的分野

- 現代社会を捉える視点
対立と合意、効率と公正
個人の尊重、自由、平等、選択、配分、法的安定性、多様性 など
- 社会に見られる課題の解決を構想する視点
対立と合意、効率と公正、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、利便性と安全性、国際協調、持続可能性 など

現代社会を捉える見方や考え方

現代社会を捉える概念の枠組みに着目して課題を見出し
それらの課題の解決に向けて多様な概念を関連付けて

追究の方法

社会的現象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

考察

構想

複数の立場や意見を踏まえ選択・判断する力

社会的な見方や考え方の追究の視点や方法(例②)

資料目目は全て仮称である

地理総合

○位置や分布に関わる視点 時間距離、時差 等質(均質、同質)、類似 など	追究の視点に向かう「問い」の例 それは、なぜそこに位置するのだろうか それは、なぜそのように分布しているのだろうか それは、なぜそのように場所になったのだろうか そこでの生活は、まわりの自然環境からなぜそのような影響を受けているのだろうか そこでの生活は、まわりの自然環境になぜそのような影響を与えているのだろうか それは、それ以外の場所となぜそのような関係を持っているのだろうか その地域はなぜそのような特徴があるのだろうか それは、(どこ)にある、どのように広げる、どのような場所とする、どのような自然の恩恵を求める、どのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、どのような地域となる)べきなのだろうか
--	--

地理に関わる探究科目

○位置や分布に関わる視点 経済距離 中心性 単一指標、複数指標、総合(指標) など	追究の方法 ◎社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて
○場所に関わる視点 立地、景観、民族性 など	◎社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて
○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 脆弱性、防災、減災 など	◎社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて
○空間的相互依存作用に関わる視点 移動性、圏構造(都市圏…), グローバル化 など	◎社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて
○地域に関わる視点 規模、格差、変容、持続可能性 など	◎社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて

歴史総合

○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代 など	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
○諸現象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
○諸現象の特色に関わる視点 相連、共通性 など	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
○事象相互の関連に関わる視点 原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義 など	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて

世界史に関わる探究科目

○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代 など	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
○諸現象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
○諸現象の特色に関わる視点 相連、共通性、多様性、複合性、相互依存性、多元性 など	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
○事象相互の関連に関わる視点 原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義 など	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

◎社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
--	--

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

◎社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
--	--

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

◎社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
--	--

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

◎社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
--	--

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

◎社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
--	--

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

◎社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
--	--

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

◎社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
--	--

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

◎社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて	◎社会的現象等の歴史的な見方や考え方 推移や変化などに着目して社会的現象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて
--	--

考察、構想した結果、獲得する知識、概念の例

・地球上の地点は、絶対的に表現できること (具体例: 日付変更線は基本的には180度の経線に沿うが、国内の時差を回避するなどの理由で何か所も折れ曲がっている) ・地球上の各地は、多様な特徴を持つこと (具体例: 東南アジアの高温多湿な地域では通気性を高めるため、シベリアの凍土帯では住宅内の断熱を強化するため、いずれも高床式住居が建設されている) ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること (具体例: サハラ砂漠の南に広がるサヘル地域では、過度な放牧や農耕、薪の採取などにより砂漠化が進んでいる) ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと (具体例: 朝鮮に苦しむ義兵隊は上向への食料供給には、人道的な側面とともに政治的諷刺や間接的な間接的な影響を及ぼした) ・空間的な広がりには、固有の性格を持ち、変容すること (具体例: 新羅と百濟は、政治や経済、文化、情報などの機能が首都に一種集中し、地域格差が拡大している国がある)	・特定の事象は、地球の表面において特定の範囲に広がること (具体例: アンゴラに起因する文化は文化的にはアンゴラに属し、南北アメリカ大陸を 経済的、文化的に隔ち戻りつつある) ・地球上の各地は、多様な特徴を持つこと (具体例: 大都市の中心には、行政機関や大企業の本社等が集まり、政治や経済の中核管理機能が集積している) ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること (具体例: 東南アジアの沖積平野では、モンスーン等の自然条件を生かした集約的な耕作農業が盛んなこと) ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと (具体例: 朝鮮に苦しむ義兵隊は上向への食料供給には、人道的な側面とともに政治的諷刺や間接的な間接的な影響を及ぼした) ・空間的な広がりには、固有の性格を持ち、変容すること (具体例: 新羅と百濟は、政治や経済、文化、情報などの機能が首都に一種集中し、地域格差が拡大している国がある)
---	--

考察、構想した結果、獲得する知識、概念の例

・16世紀には、諸大陸を結びつける国際商業が活性化し、アジアの諸帝国が繁栄した。豊かな富を求めてアジアに進出した西欧との交流も盛んに行われた。 ・19世紀の欧米や日本は、工業化や政治変遷の過程を経て、新たな国家のくみを生み出し、世界と日本のつながりが一層深まった。 ・19世紀のヨーロッパ諸国の進出に対して、日本やアジア諸国においては様々な対応策が生まれ、ナショナリズムが形成された。 ・20世紀には、科学技術やマスメディアが発達し、人・モノ・情報の移動が加速化し、大衆の政治や経済、文化活動への参加が拡大した。 ・市場経済の進展とともに、国内外で富の格差をめぐる問題が顕著となり、富の再分配をめぐる動きが起る一方、国際社会では支配と従属関係が深まった。 ・大戦時における総力戦体制の構築は、戦後の国家と国民、国際秩序の在り方に新たな変化を生み出した。 ・経済開発と環境保全をめぐめる問題は、豊かな生活の在り方や人間の生き方を再考させた	・16世紀には、諸大陸を結びつける国際商業が活性化し、アジアの諸帝国が繁栄した。豊かな富を求めてアジアに進出した西欧との交流も盛んに行われた。 ・19世紀の欧米や日本は、工業化や政治変遷の過程を経て、新たな国家のくみを生み出し、世界と日本のつながりが一層深まった。 ・19世紀のヨーロッパ諸国の進出に対して、日本やアジア諸国においては様々な対応策が生まれ、ナショナリズムが形成された。 ・20世紀には、科学技術やマスメディアが発達し、人・モノ・情報の移動が加速化し、大衆の政治や経済、文化活動への参加が拡大した。 ・市場経済の進展とともに、国内外で富の格差をめぐる問題が顕著となり、富の再分配をめぐる動きが起る一方、国際社会では支配と従属関係が深まった。 ・大戦時における総力戦体制の構築は、戦後の国家と国民、国際秩序の在り方に新たな変化を生み出した。 ・経済開発と環境保全をめぐめる問題は、豊かな生活の在り方や人間の生き方を再考させた
--	--

考察、構想した結果、獲得する知識、概念の例

・歴史的な諸事象の意味を説明する際は、直接的な因果関係はもちろん、歴史の転換や、他地域との比較による特徴の抽出などにも留意することが大切である	・歴史的な諸事象の意味を説明する際は、直接的な因果関係はもちろん、歴史の転換や、他地域との比較による特徴の抽出などにも留意することが大切である
---	---

考察、構想した結果、獲得する知識、概念の例

・人類は、世界各地の自然環境に適応し、農耕や牧畜を基礎とした諸文明を形成し、やがて諸地域ごとのまとまりを生み出した ・ユーラシアの海・陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が活発化し、新たな地域世界の形成や再編が進んだ ・アジアの繁栄や西洋諸国の拡大を背景に、諸地域世界の交流が活発化し、新たな工業化は世界の構造的なつながりを生み出した ・科学技術の発達や生産力の発展は、地球規模での世界の一体化を加速させた。 ・19世紀後期から20世紀初期にかけておこった産業構造の変化は、帝国主義政策を生み出し、軍事力に基づく世界分割が進んだ ・冷戦の終結後の国際経済の連携の動きは、新たな地域統合をもたらし、新たな国際秩序を構築する動きが生まれた	・人類は、世界各地の自然環境に適応し、農耕や牧畜を基礎とした諸文明を形成し、やがて諸地域ごとのまとまりを生み出した ・ユーラシアの海・陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が活発化し、新たな地域世界の形成や再編が進んだ ・アジアの繁栄や西洋諸国の拡大を背景に、諸地域世界の交流が活発化し、新たな工業化は世界の構造的なつながりを生み出した ・科学技術の発達や生産力の発展は、地球規模での世界の一体化を加速させた。 ・19世紀後期から20世紀初期にかけておこった産業構造の変化は、帝国主義政策を生み出し、軍事力に基づく世界分割が進んだ ・冷戦の終結後の国際経済の連携の動きは、新たな地域統合をもたらし、新たな国際秩序を構築する動きが生まれた
---	---

歴史的な見方や考え方を踏まえ、自分の考えを論理的に説明すること

社会的な見方や考え方の追究の視点や方法 (追究の視点や方法) の例③

追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例

・いつ(どこで、誰によって)おこったのか
 ・何が、なぜ、どのように転換したか
 ・何が、どのように推移したのか
 ・どのような変化が生じたのか
 ・どのような背景が生じたのか
 ・どのような時代(時期)だったのか
 ・なぜおこった(何のために)行われたのか
 ・どのような関係性が見いだせるのか
 ・どのような意味や特色があるのか
 ・どのような点が現代と関係しているのか
 ・何が課題として残されたか
 ・どのような影響を及ぼす予題できるか
 ・なぜその判断をしたと考えられるか
 ・他にどのような選択が可能であったと考えるか
 ・どのように意識付けられたのか

・社会を成り立たせる背景にあるものは何か
 ・社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる考え方は何か
 ・人間としての在り方生き方について考えていくとはどのようなことか
 ・よりよい集団、社会の在り方とはどのようなものか
 ・政治的主体となるとはどのようなことか
 ・経済的主体となるとはどのようなことか
 ・公共的な場づくりや安全を旨とした地域の活性化のために、私たちはどのような在り方に関わり、持続可能な社会づくりの主体となればよいのか

・個人の人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何か、人間とは何か
 ・他者とどう生き、社会でどう生きていけばよいか、良識ある公民としていかに在るべきか、いかに生きべきか
 ・人間は何を知ることができるのか、なぜ世界が存在するのか、人間はどのような位置づけで存在するのか
 ・哲学や宗教や芸術が何を問い、どのような答えを見出してきたか
 ・自然とどのように関わると生きていけばよいか、自然科学で知りうることと倫理学で求めることの違いはどこにあるか
 ・グローバル化が進む中で、異文化と共生し多様な文化が共存する国際社会を築くために考えるべきこととはどのようなことか

・政治の意義と機能はどのようなものであるか
 ・経済活動の意義はどのようなものであるか
 ・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方はどのようなものか
 ・グローバル化が進む国際経済にあつて、日本経済は今度どのようなことが望ましいと考えるか
 ・地域社会の発展と住民生活の向上のために、国と地方公共団体の関係の在り方や私たちの関わり方について、どのような選択・判断、合意形成を行うか

考えられる追究の視点例

○年代の基本に関わる視点
 時期、年代、時代区分 など
 ○諸事象の推移や変化に関わる視点
 継続、発展、時代の転換 など
 ○諸事象の特色に関わる視点
 相違、共通性、時代性、多様性、地域性、など
 ○事象相互の関連に関わる視点
 原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義 など
 ○諸事象の位置付けに関わる視点
 論理性、客観性、妥当性 など

○人間と社会の在り方を捉える視点
 幸福、正義、公正、個人の尊厳、自由、平等、寛容、委任、希少性、機会費用、利便性と安全性、多様性とアイデンティティ など
 ○公共的な空間に見られる課題の解決を構想する視点
 幸福、正義、公正、協働関係の共時性と通時性、比較衡量、相互承認、適正な手続き、民主主義、自由・権利と責任・義務、平等、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など

○人間としての在り方生き方を捉える視点
 善悪、生死、徳、愛、共感、幸福、義務、正義、個人の尊厳、公正、寛容、存在、真理、聖、美 など
 ○現代の倫理的諸課題の解決を構想する視点
 尊重、畏敬、創造、保全、自由、権利、責任、自立、協働、勤労、多様性、相互承認、平和、国際協働、持続可能性 など

○社会を捉える視点
 個人の尊厳、効率、公正、自由、平等、委任、希少性、機会費用、選択、配分、分業、交換、利便性と安全性、多様性とアイデンティティ など
 ○社会に見られる課題の解決を構想する視点
 対立、協働、効率、公正、比較衡量、具体的な妥当性と法的安定性、相互承認、適正な手続き、民主主義、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

◎社会的事象等の歴史的な見方や考え方

追究の方法
 ・推移や変化などに着目して社会的事象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて

考察
 ・日本の歴史の展開、伝統と文化の特色を多面的・多角的、総合的に考察する力

構想
 ・歴史上の人物の行動や事象の意義について、多様な資料を活用して構想(選択・判断)する力

◎人間と社会の在り方を捉える見方や考え方

追究の方法
 ・人間と社会の在り方を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出し、それらの課題の解決に向けて選択・判断の基準となる考え方を関連付けて

考察
 ・人間としての在り方生き方、社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

構想
 ・複数の立場や意見を踏まえて、社会を形成する主体として構想(選択・判断)する力

◎人間としての在り方生き方を捉える見方や考え方

追究の方法
 ・人間としての在り方生き方を捉える諸概念に着目して現代の倫理的課題を見出し、それらの課題の解決に向けて選択・判断の基準となる考え方や哲学、宗教、芸術などに関わる理論を有機的に関連付けて

考察
 ・人間としての在り方生き方に関わる事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

構想
 ・複数の立場や意見を踏まえて構想(選択・判断)する力

◎社会を捉える見方や考え方

追究の方法
 ・社会を捉える概念的枠組みに着目して社会的課題を見出し、それらの課題の解決に向けて選択・判断の基準となる考え方や政治、法、経済などに関わる理論を有機的に関連付けて

考察
 ・社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

構想
 ・複数の立場や意見を踏まえて構想(選択・判断)、合意形成する力

考察、構想した結果、獲得する知識の例

・遺物や遺跡、様々な歴史資料は、現在の我が国の文化や伝統を考察する上で重要な手がかりとなってきた
 ・日本の古代国家の形成過程の背景の一つには、東アジア世界の变化が存在する中世の社会では、武士勢力や宗教勢力の拡大や、庶民の台頭など権力の多様化が新しい文化や地域的な発展を生み出した
 ・江戸時代初期の経済発展は、町人や富農に文芸の普及や生活文化の上昇をもたらし、文化の担い手を成長させた
 ・18～19世紀前半の経済・産業の成長は、一方で社会の矛盾を深め、新たな社会構造の構築を促し、明治維新へとつながっていた
 ・1920年代の経済状況は、人々の政治や社会に対する評価や要求に変化を生み、1930年代の日本の政治状況に大きな影響を与えた
 ・戦後日本経済の推移は、冷戦の国際状況と密接に関係して展開した

・人物や事象の歴史的な意義の判断に際しては、獲得した知識(概念)を活用し、諸資料に基づいて、複数の立場や意見を踏まえ、自分の考えを論理的に説明できることが大切である
 ・今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、様々な立場や文化等を背景にして社会が成立している
 ・「行為の結果として、個人の幸福とともに、社会全体の幸福を重視する考え方」と「行為の結果よりも、行為の動機となる人間の尊厳としての公正などを重視する考え方」があり、両者ともに活用し、自分も他者ともに納得できる解を見出そうと考えることが重要である

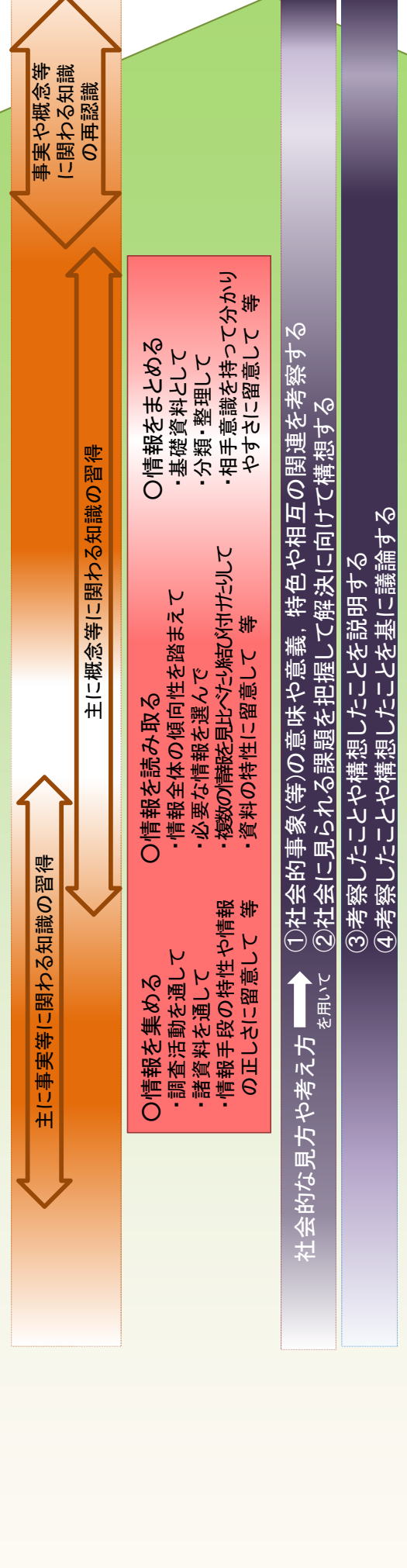
・「自分らしい生き方」を問い、自らの体験や悩みを振り返ることを通じて自らを成長させるとともに、人間は社会的な存在であることを認識し、対話を通じてお互いを高め合うことの両者によってよりよい公共的な空間を作り出していくことが大切である
 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用するのと、個人を起点として、自立・協働の観点から多様性を尊重して持続可能な地域づくりに向けた役割を担う主体となることが大切である
 ・価値あるよいものを探求し、正しい行いを選ぶとそれを実行する意志の強さを身に付けた徳の高い人間を目指し生きる
 ・自由権の保障と公正・公平な社会にある人々への配慮も必要であるという考え方を手がかりとして「公平な社会」について考え続ける
 ・存在の不思議への驚きから知識への深い理解が生じること、正解が定めがたく関心ごと自体に意味がある問いがあり、これを問い考え続けることが大切であることに気付く

・倫理で考えるのは主に「にべき」であるため、自然科学で考える「ある」とは異なるが、観察した事実を前提として繰り返された理論を現実の出来事とさらに観察し修正しながら、判断と理論を調整していくことが大切である
 ・重んじていくことが大切である
 ・政治とは広義には、個人あるいは集団の考え方や意見、利害の対立や衝突を調整したり解決したりすることにより、社会の秩序を維持し統合を図る機能を意味している
 ・経済活動は分業と交換に基づき人間生活の維持・向上のためにに行われるものであり、いずれの社会でも、「何をどれだけ」、「どのような方法で」、「誰のために」生産すべきか、生産された財やサービスなどをどのようにして社会の構成員に分配し、いかに消費するかという経済的選択の問題を解決しなければならぬものである
 ・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方を考察、追究する際には、現代政治における個人、政党及び圧力団体の行動、住民運動など現実社会の事象を取り上げ、客観的な資料を基に様々な角度から主体的に考察することが必要である
 ・個人の尊厳、基本的な権利を基盤に、理論と現実との相互関連に留意しながら持続可能な地域社会となる在り方を考察、追究することが大切である



主な学習過程の例

- 学習課題を設定する
 - 社会的現象(等)を知り、気付きや疑問を出し、課題意識を醸成する
 - 学習課題を設定する
- 課題解決の見通しを持つ
 - 予想や仮説を立てる
 - 調査方法、追究方法を吟味する
 - 学習計画を立てる
- 予想や仮説の検証に向けて調べる
 - 学校外での観察や調査などを通して調べる
 - 様々な種類の資料を活用して調べる
 - 他の児童生徒と情報を交換する
- 社会的現象(等)の意味や意義、特色や相互の関連を考察する
 - 多面的・多角的に考察する
 - 話し合う(討論等)
 - 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する
 - 複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する
- 考察したことや構想したことをまとめる
 - 学習課題を振り返って結論をまとめる
 - 結論について他の児童生徒と話し合う
 - 学習課題についてレポートなどにまとめる
- 学習を振り返って考察すること
 - 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る
 - 学習成果を学校外の他者に伝える
 - 新たな問い(課題)を見出し、追及したりする



主な評価とその場面の例

- 社会的現象(等)の知識について
- 社会的現象(等)について調べまとめる技能
- 社会的現象(等)の考察・判断・表現
- 主体的に社会的現象(等)に関わる態度

学んだことの意味に気付いて

学んだことを社会生活に生かすとして

他者と協働して

よりよい社会を目指して

■ 学習過程全体について留意すべき点

- 上記の学習過程及び評価の場面は例示であり、上例に限定されるものではないこと
- 学習活動のつながりと学びの広がり(深い学び、対話的な学び、主体的な学び)を意図した、単元の構成の工夫等が望まれること
- 社会的現象等については、児童生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが重要であること。その際、特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど偏った取扱いにより、児童生徒が多面的・多角的に考察し、事実を客観的に捉え、公正に判断することのないよう留意すること。また、客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意すること

社会，地理歴史，公民における評価の観点等（たたき台）

平成28年4月27日
教育課程部会社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ 資料15

社会，地理歴史，公民で獲得する
知識・技能

社会，地理歴史，公民で育成する
思考力・判断力・表現力等

社会，地理歴史，公民で養われる
学びに向かう力・人間性

社会的対象(等)についての知識・技能

- 社会的対象(等)について(～は～であると)理解し，その知識を身に付けている
 - ・主として事実等に関わる知識
(用語・語句などを含める)
 - ・主として概念等に関わる知識
(特色，意味，理論など)
- 社会的対象(等)を調べまとめる技能(社会的対象(等)に関する情報を収集する・読み取る・まとめる技能)を身に付けている
 - ・情報全体の傾向性を踏まえて
 - ・必要な情報を選んで
 - ・複数の情報を見比べたり結び付けたりして
 - ・資料の特性に留意して
(例：情報を読み取る技能の場合)

社会的対象(等)についての 思考・判断・表現

- 社会的な見方や考え方をを用いて，社会的対象(等)を見出し，社会的対象(等)の意味や意義，特色や相互の関連を考察している
- 社会的な見方や考え方をを用いて，社会に見られる課題を把握し，その解決に向けて構想している
- 考察したことや構想したことについて，説明したり議論したりしている

主体的に社会的対象(等)に 関わろうとする態度

- 学習対象(社会的対象(等))について主体的に調べたり分かろうとしたりしている
 - ・問いや追究の見通しを持って
 - ・振り返り，学んだことの意味に気付いて
 - ・身に付けた追究の視点を新たな問いに生かして
 - ・学んだことを社会生活に生かそうとして
- 課題(学習上の課題，社会に見られる課題)を意欲的に解決しようとしている
 - ・粘り強く(試行錯誤して)
 - ・他者と協働して
 - ・よりよい社会を目指して

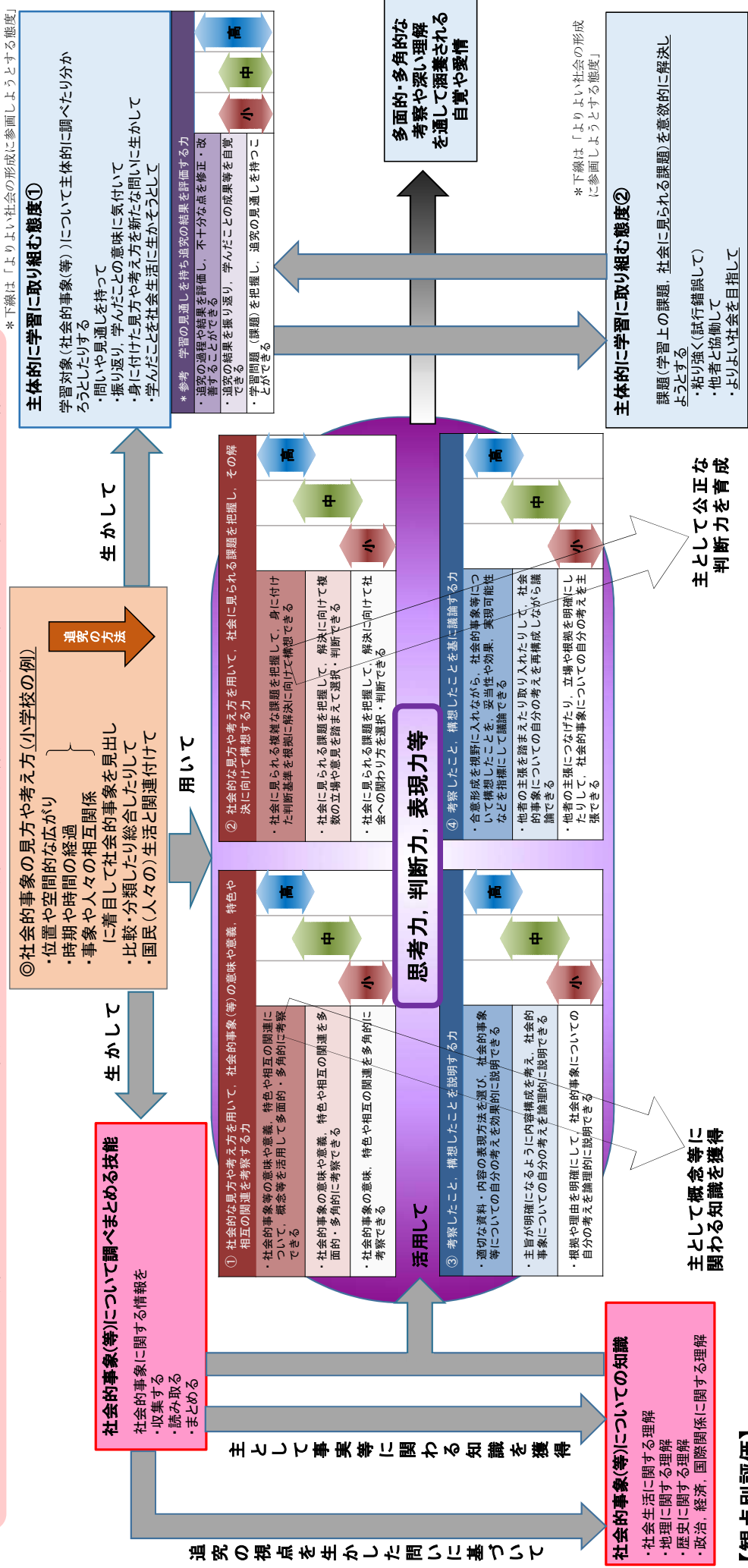
各教科等の評価の観点のイメージ(案)

平成28年2月24日
中教審／総則・評価特別部会
【資料3-1】より

観点(例) ※実際に設定する各教科の観点は，教科の特質に対応して検討	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨のイメージ(例) ※具体的な記述については，各教科の特質を踏まえて検討	(例) ○○を理解している／○○の知識を身に付けている ○○することができる／○○の技能を身に付けている	(例) 各教科の特質に応じ育まれる見方や考え方をを用いて探究することを通じて，考えたり判断したり表現したりしている	(例) 主体的に知識・技能を身に付けたり，思考・判断・表現をしようとしていたりしている

社会、地理歴史、公民を通して育成すべき資質・能力の三つの柱が学習において結びつくイメージ（たたき台案）

グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成(高)



社会的な見方や考え方の育成

◎ 社会的な見方や考え方の育成

- 位置や空間の経過
- 時期や時間の経過
- 事象や人々の相互関係
- 比較・分類したり総合したりして
- 国民(人々の)生活と関連付けて

活用して	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<p>◎ 社会的な見方や考え方の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的な見方や考え方の育成 社会的な見方や考え方の育成 社会的な見方や考え方の育成 	<p>◎ 社会的な見方や考え方の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的な見方や考え方の育成 社会的な見方や考え方の育成 社会的な見方や考え方の育成 	<p>◎ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む態度 主体的に学習に取り組む態度 主体的に学習に取り組む態度

社会的な見方や考え方の育成

◎ 社会的な見方や考え方の育成

- 位置や空間の経過
- 時期や時間の経過
- 事象や人々の相互関係
- 比較・分類したり総合したりして
- 国民(人々の)生活と関連付けて

【観点別評価】

◎ 社会的な見方や考え方の育成

- 位置や空間の経過
- 時期や時間の経過
- 事象や人々の相互関係
- 比較・分類したり総合したりして
- 国民(人々の)生活と関連付けて

◎ 社会的な見方や考え方の育成

- 位置や空間の経過
- 時期や時間の経過
- 事象や人々の相互関係
- 比較・分類したり総合したりして
- 国民(人々の)生活と関連付けて

【社会的な見方や考え方の育成】

◎ 社会的な見方や考え方の育成

- 位置や空間の経過
- 時期や時間の経過
- 事象や人々の相互関係
- 比較・分類したり総合したりして
- 国民(人々の)生活と関連付けて

◎ 社会的な見方や考え方の育成

- 位置や空間の経過
- 時期や時間の経過
- 事象や人々の相互関係
- 比較・分類したり総合したりして
- 国民(人々の)生活と関連付けて

【主体的に学習に取り組む態度】

◎ 主体的に学習に取り組む態度

- 主体的に学習に取り組む態度
- 主体的に学習に取り組む態度
- 主体的に学習に取り組む態度

◎ 主体的に学習に取り組む態度

- 主体的に学習に取り組む態度
- 主体的に学習に取り組む態度
- 主体的に学習に取り組む態度

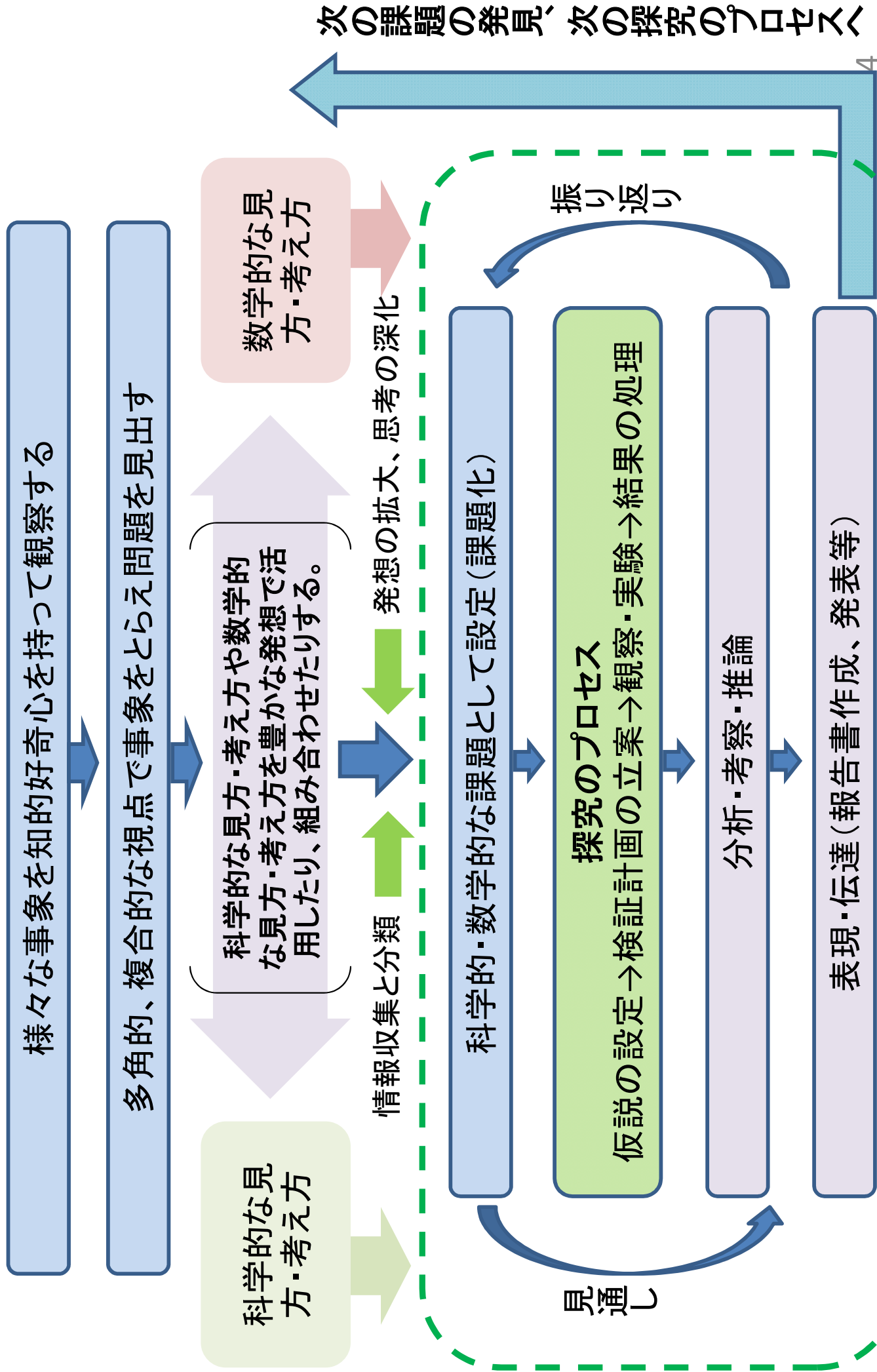
高等学校の数学・理科にわたる探究的科目の在り方 に関する特別チーム検討事項

1. 数学と理科の知識や技能を総合的に活用して主体的な探究活動を行う数理探究（仮称）で育成すべき資質・能力について
 - ・ 三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
2. 数理探究（仮称）の内容等について
 - ・ 数理探究（仮称）の目標、内容、探究的な活動の対象領域等
3. 数理探究（仮称）の指導方法及び指導に当たっての留意事項等について
4. 資質・能力の育成のために重視すべき数理探究（仮称）の評価の在り方について
5. 数理探究（仮称）の質を高め、普及させるための方策

2. 育成すべき資質・能力(案)

知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ● 探究的な活動を自ら遂行するための知識・技能 例：研究テーマの設定方法 先行研究の調査方法 研究計画の立案方法 研究の進め方 データの処理、分析 研究成果のまとめ方 研究成果の発表方法 についての知識・技能 ● 既に有している知識・技能の活用及び探究を通じて得られる内容に関する知識や探究に関する技能 ● 探究を通して新しい知見を得る意義についての認識 ● 研究倫理（生命倫理等を含む。）についての基本的な理解 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科・科目の枠にとらわれない多角的、複合的な視点で事象をとらえ、科学的・数学的な課題として設定することができる力 ● 科学的な見方・考え方や数学的な見方・考え方を豊かな発想で活用したり、組み合わせたりできる力 ● 多様な価値観や感性を有する人々と議論等を積極的に行い、それを基に多面的に思考する力 ● 探究的な学習を通じて課題解決を実現するための能力 例：観察・実験デザイン力 構想力 実証的に考察する力 論理的に考察する力 分析的に考察する力 統合的に考察する力 文章にまとめる力 発表・表現力 	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な事象に対して知的好奇心を持って科学的・数学的にとらえようとする態度 ● 科学的、数学的課題や事象に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度 ● 見通しを立てたり、振り返ったりするなど、内省的な態度 ● 新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度 ● 主体的・自律的に探究を行っていくために必要な研究に対する倫理的な態度

3. 新科目の学習過程のイメージ



4. 新科目の構造について(案)

探究を深める段階の考え方

- 基礎で身につけた資質・能力を活用して自ら課題を設定し、探究活動を行う。
- 課題に関する内容に関する知識や課題を解決するための技能を自ら身につけ、より深い探究活動を志向させる(共通ではない学び)。
- 探究に当たっては、質を高めるため大学・企業等の外部機関を積極的に活用する。
- 実験や分析自体の成否より、試行錯誤し、失敗のリスクも引き受けながら自分たちでやりきる過程を重視する。

実施段階

大学・企業等からの支援

基礎で学んだことを用いて、自ら課題を設定し、探究活動を実施する。

校内・校外において探究の成果を発表する。

プロセスの例

探究の手法について学ぶ

教員の指導のもと、研究の進め方や分析の手法を考え、選択した課題等の研究を実施する

研究倫理について学ぶ



校内等で成果を発表する

基礎の習得段階の必要性

- 自ら探究プロセスを回し、質の高い深い探究活動を行うためには、そのために必要な資質・能力をあらかじめ身につけておくことが必要。
- 新たな価値の創造に向けて挑戦することの意義等について理解を深めさせることで、主体的に探究に取り組む態度を身につけさせることが必要。
- 研究倫理等についての基本的な知識を身につけさせることが必要。

基礎段階

6. 評価の観点(案)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>理数探究(仮称)</p>	<p>探究的な活動を自ら遂行するための知識及び技能や、研究倫理にかかわる基本的な知識を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多角的、複合的な視点で事象をとらえ、科学的・数学的な課題として設定することができる。 ・多様な価値観や感性を有する人々との議論や探究的な学習を通して課題を解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事象に対して知的好奇心をもって科学的・数学的にとらえようしたり、新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦したりしようとする。 ・科学的、数学的な課題や事象に徹底的に向き合い考え抜こうとする。 ・問題解決の過程において、見通しを立てたり振り返ったりして主体的に探究を行おうとする。

算数・数学ワーキンググループにおける検討事項

1. 算数・数学を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・算数・数学を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた算数・数学において育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・算数科・数学科において育成すべき資質能力と指導内容との関係について
 - ・統計的な内容等の充実について

2. アクティブ・ラーニング（※）の三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

幼・小・中・高等学校を通じた算数・数学教育のイメージ(案)



【高等学校】

- ◎ 事象を数理化し、論理的に考察し、本質を明らかにするなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に解釈したり表現したりするための知識・技能を身に付ける。
- ② 事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③ 数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断したり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。
- それぞれの内容を生活と関連付けたり、生徒の疑問を取り上げたりするなど生徒の数学学習に対する関心や意欲を高める。
- 学習の過程を振り返り、本質を明らかにしたり学習内容を整理し直したりして、自ら見いだした問題を解決する活動を充実する。

【中学校】

- ◎ 事象を数理化し、論理的に考察するなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に解釈したり表現したりするための知識・技能を身に付ける。
- ② 事象を数学を活用して論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③ 数学のよさを実感し、数学を生活や学習に活用して考えたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。
- 問題解決に必要な情報を生徒自らが集めたり選択したりしたり、帰納的に考えることなどから自ら決まりを見付ける活動、見いだした決まりを既習の内容を生かして演繹的に説明する活動を充実する。
- 既習の内容を振り返って関連を図ったり、新たに学んだ内容を用いると、どのようなことができるようになったのかなどについて明らかにしたりする活動を充実する。



【小学校】

- ◎ 算数の学習を生活や学習に活用するなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理するための知識・技能を身に付ける。
- ② 日常の事象を数理的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。
- ③ 数学のよさに気づき、算数の学習を生活や学習に活用したり、学習を振り返ってよりよく問題解決したりする態度を養う。
- 事象を数理的に考察したり、自分の考えを数学的に表現し処理したり、振り返ったりする学習活動を充実する。
- 具体物、図、数、式、表やグラフ相互の関連を図り、問題解決する学習活動を充実する。



【幼児教育】(教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)

- 生活や遊びの中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感に応じてこれらを活用するようになる。

	知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等	資質・能力の育成のために重視すべき学習過程の例*
<p>数学 高等学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解 ● 事象を数学化したり、数学的に解釈・表現したりするための知識・技能 ● 数学的な問題解決に必要な知識 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事象を数学的に考察する力 ● 既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考える力 ● 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> ● 数学的な見方や考え方のよさ、数学の用語や記号のよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを認識し、事象の考察や問題の解決に数学を積極的に活用して、数学的論拠に基づいて判断する態度 ● 問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度 ● 多様な考えを生かし、よりよく問題解決する態度 	<ul style="list-style-type: none"> ● 疑問や問いの発生 ● 問題の設定 ● 問題の理解、解決の計画 ● 計画の実行、結果の検討 ● 解決過程や結果の振り返り ● 新たな疑問や問い、推測などの発生
<p>数学 中学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解 ● 事象を数学化したり、数学的に解釈・表現したりするための知識・技能 ● 数学的な問題解決に必要な知識 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察する力 ● 既習の内容を基にして、数量や図形などの性質を見いだし、統合的・発展的に考える力 ● 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> ● 数学的な見方や考え方のよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度 ● 問題解決などにおいて、粘り強く考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度 ● 多様な考えを認め、よりよく問題解決する態度 	<ul style="list-style-type: none"> ● 疑問や問いの発生 ● 問題の設定 ● 問題の理解、解決の計画 ● 計画の実行、結果の検討 ● 解決過程や結果の振り返り ● 新たな疑問や問い、推測などの発生
<p>算数 小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解 ● 日常の事象を数理的に処理するために必要な知識・技能 ● 数学的な問題解決に必要な知識 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考える力 ● 基礎的・基本的な数量や図形の性質や計算の仕方を見いだし、既習の内容と結びつけ統合的に考えたり、そのことを基に発展的に考えたりする力 ● 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ● 数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、数学的な見方や考え方や数理的な処理のよさに気づき、算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする態度 ● 数学的に表現・処理したことを振り返り、批判的に検討しようとする態度 ● 問題解決などにおいて、よりよいものを求め続けようとし、抽象的に表現されたことを具体的に表現しようとしたり、表現されたことをより一般的に表現しようとするなど、多面的に考えようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ● 疑問や問いの気付き ● 問題の設定 ● 問題の理解、解決の計画 ● 解決したことこの検討 ● 解決過程や結果の振り返り ● 新たな疑問や問いの気付き

* 学習過程については、自立的に、ときに協働的に行い、それぞれに主体的に取り組めるようにする。

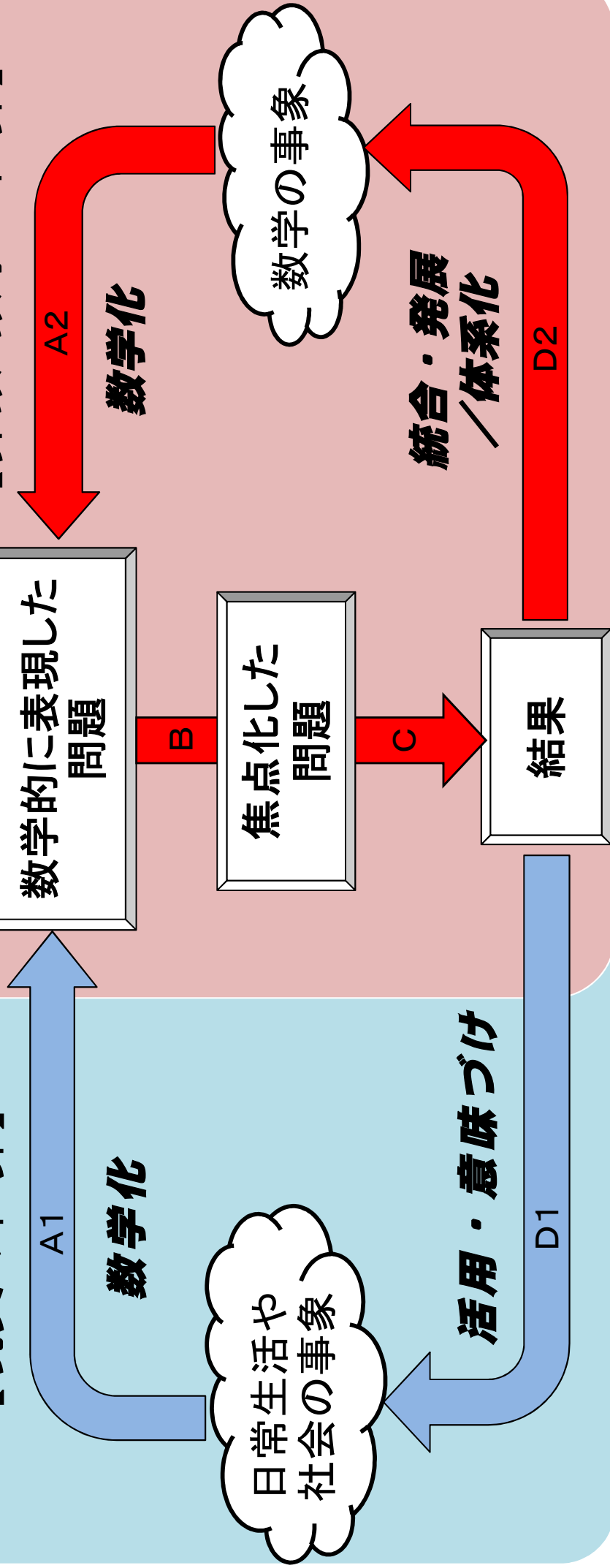
事象を数理的に捉え，数学的に表現し処理するとともに，論理的に考え，統合的・発展的に考察する。

高等学校 数学	事象を数理的に捉え，数学的に表現し処理するとともに，論理的に考え，統合的・発展的，体系的に考察する。
中学校 数学	事象を数理的に捉え，数学的に表現し処理するとともに，論理的に考え，統合的・発展的に考察する。
小学校 算数	事象を数理的に捉え，数学的に表現し処理するとともに，帰納的・類推的・演繹的に考え，統合的・発展的に考察する。

算数・数学の問題発見・解決のプロセス

【現実の世界】

【算数・数学の世界】



日常生活や社会の事象を数理的に捉え、
数学的に処理し、問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え、
問題を解決することができる。

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

※各場面で、言語活動を充実

※これらのプロセスは、自立的にときに協働的に行い、それぞれに主体的に取り組めるようにする。

※それぞれのプロセスを振り返り、評価・改善することができるようにする。

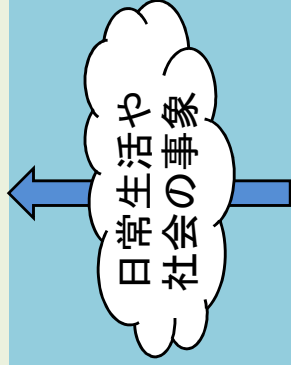
算数・数学における問題発見・解決のプロセスと育成すべき資質・能力

事象を数理的に捉え、数学の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

日常生活や社会の事象を数理的に捉え、
数学的に処理し、問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え、
問題を解決することができる。

- A1 日常生活や社会の問題を数理的に捉えることについて
- 事象の数量等に着眼して数学的な問題を見いだす力
 - 事象の特徴を捉えて数学的な表現を用いて表現する力(事象を数学化する力)



- D1 解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすることについて
- 得られた結果を元の事象に戻してその意味を考える力
 - 様々な事象に活用する力

数学的に表現した問題

- B 数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てることについて
- 数学的な問題の本質を見いだす力(洞察する力)
 - 数学的な問題を解決するための見通しを立てる力(構想力)

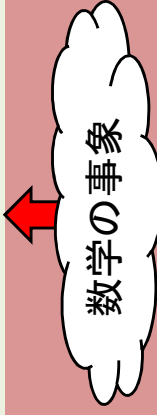
焦点化した問題

- C 焦点化した問題を解決することについて
- 目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理する力
 - 数学的な見方や考え方を基に、的確かつ能率的に処理する力
 - 論理的に推論する力(帰納、類推、演繹)

結果

- E 数学的な表現を用いて、人々と交流し合うことについて
- 数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりする力
 - 目的に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて説明する力

- A2 数学の事象における問題を数学的に捉えることについて
- 数学の事象から問題を見いだす力
 - 事象の特徴を捉え、数学化する力
 - 得られた結果を基に拡張・一般化する力



- D2 解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりすることについて
- 数学的な見方や考え方のよさを見いだす力
 - 得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていく力
 - 見いだした事柄を既習の知識と結びつけ、概念を広げたり深めたりする力
 - 統合的・発展的に考える力

思考・判断

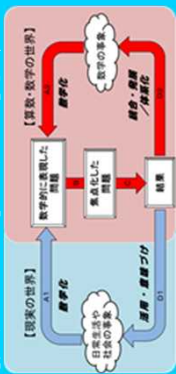
表現

人間性

※これらの力は必ずしもこの位置のみに位置づくわけではない

- F 学習に向かう力、態度について
- 過程や結果を吟味し、評価・改善する態度
 - 多面的に考え、粘り強く問題の発見や解決に取り組む態度

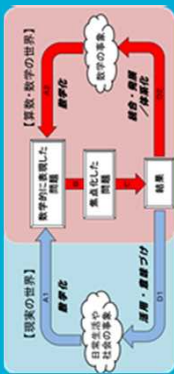
教科横断の問題解決プロセス



活用

汎用的な概念、
見方や考え方等
の獲得

他領域・他分野の問題の解決プロセス

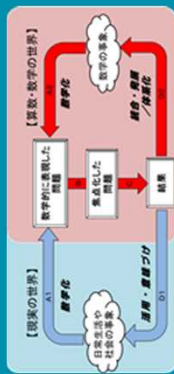


領域・分野横断
の概念、
見方や考え方等
の獲得

活用

活用

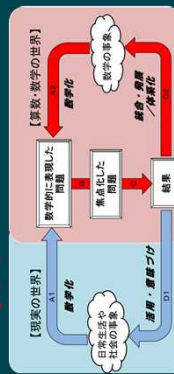
類似問題や発展問題の解決プロセス



洗練された
領域固有の概念、
見方や考え方等
の獲得

活用

問題の解決プロセス



概念、
見方や考え方等
の獲得

汎用的な概念、
見方や考え方等
の獲得

算数・数学の
問題発見・解決の
広がり
汎用的な見方や
考え方等の
獲得過程

発展的な問題発見

【高等学校(必修)】

- 統計的に分析するための知識や技能を理解し、日常生活や社会生活、学習の場面等において問題を発見し、必要なデータを集め適切な統計的手法を用いて分析し、その結果に基づいて問題解決や意思決定をする。
- データの収集方法や統計的な分析結果などを批判的に考察する。

【中学校】

- 統計的に分析するための知識や技能を理解し、日常生活や社会生活の場面において問題を発見し、調査を行いデータを集めて表やグラフに表し、統計量を求めることで、現状や分布の傾向を把握したり、2つ以上の集団を比較したりして、問題解決や意思決定をする。
- データの収集方法や統計的な分析結果などを批判的に考察する。

【小学校】

- 統計的に分析するための知識や技能を理解し、身近な生活の問題を解決するためにデータを集めて表やグラフに表し、統計量を求めることで、現状や分布の傾向を把握したり、2つ以上の集団を比較したりして意思決定をする。
- 統計的手法を用いて出された結果を、批判的に考察する。

資質・能力及び内容等の整理

<p>個別の知識や技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 統計に関する基本的な概念や原理・法則の理解 ● 統計的に分析するための知識・技能
<p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 不確定な事象について統計的な手法を適切に選択し分析する力 ● データに基づいて合理的に判断し、統計的な表現を用いて説明する力 ● 統計的な表現を批判的に解釈する力
<p>学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 不確定な事象の考察や問題解決に、統計を活用しようとする態度 ● データに基づいて予測や推測をしたり判断したりしようとする態度 ● 統計的な表現を批判的にみようとする態度

【高等学校】

- 統計を多くの生徒が履修できるよう科目構成及びその内容について見直す。
- 必修科目の内容(記述統計)を小・中学校の内容を踏まえ充実する。
- 選択科目の内容(推測統計)を「(問題解決で)使える統計」になるよう改善する。
- 教科「情報」との関連を充実し、問題解決型の学習を重視する。
 - * 記述統計: データの傾向や特徴を平均値や標準偏差などを用いて記述する
 - * 推測統計: 標本を基に母集団の傾向や特徴を推測する

【中学校】

- 日常生活や社会などにかかわる疑問をきっかけにして問題を設定し、それを解決するために必要なデータを集めて表現・処理し、統計量を求めることで現状や傾向を把握したり、2つ以上の集団を比較したりするなど問題の解決に向けた一連の活動を充実する。
- 統計的な手法について、層別により集めたデータを分けることなどができるよう充実する。
- 統計的な表現について、小学校での学習内容や他教科等での学習内容と関連付けて扱う内容を見直す。

【小学校】

- 統計的な問題解決活動の充実を図る。具体的には、グラフを作成したのち、考察し、さらに新たな疑問を基に、グラフを作り替え、目的に応じたグラフを作成し、考察を深める。また、ある目的に応じて示されたグラフを、批判的に考察する。
- 棒グラフや折れ線グラフ、ヒストグラムに関して、複数系列のグラフなどを扱ったり、平均値以外の代表値を扱ったりするよう見直す。
- 理科の季節の移り変わりや算数の折れ線グラフなど、算数の内容の関連を引き続き留意する。

高等学校

統計教育の充実(たたき台)

統計を活用するための基本的な知識や技能, 考え方を育む

統計を活用して問題解決する力を育む

数学科

○データの分析:
(現行)

- ア データの散らばり イ データの相関 (改善の方向)
- ・小中学校の内容を踏まえ, 内容の見直し
- ・PPDACサイクルを意識した問題解決型の学習
- ・できるだけ早期に学習し, 他科目等の学習にも活用

数学 I

○確率分布と統計的な推測:
(現行) < 数学 B >

- ア 確率分布 イ 正規分布 ウ 統計的な推測 (改善の方向)
- ・より多くの生徒が履修するように工夫
- ・「使える統計」になるよう内容の工夫・改善
→ 内容の名称を「データの活用(仮称)」へと変更

選択科目

他教科等でも積極的な活用

情報科

問題発見・解決に向けて, 事象を情報とその後
結び付きの視点から捉え, 情報技術を適切かつ
効果的に活用する力を育む

○情報社会の問題解決:

中学校までに経験した問題解決の手法を振り返り, 情報社会の問題の発見と解決に適用する

○モデル化とシミュレーションの考え方:

事象をモデル化して問題を発見したり, シミュレーションを通してモデルを評価したりする

* 問題発見, 結果の評価, モデル化で統計的手法を用いる

情報 I (仮称) 必修科目

情報 I において培った基礎の上に, 問題の発見・解決に向けて, 情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用し, あるいは情報コンテンツを創造する力を育む

○情報とデータサイエンス:

データサイエンスの手法を活用して情報を精査する力を育む

情報 II (仮称) 選択科目

疑問や問いの発生
問題の設定

問題の理解
解決の計画

計画の実行
結果の検討

振り返り・新たな問いの発生

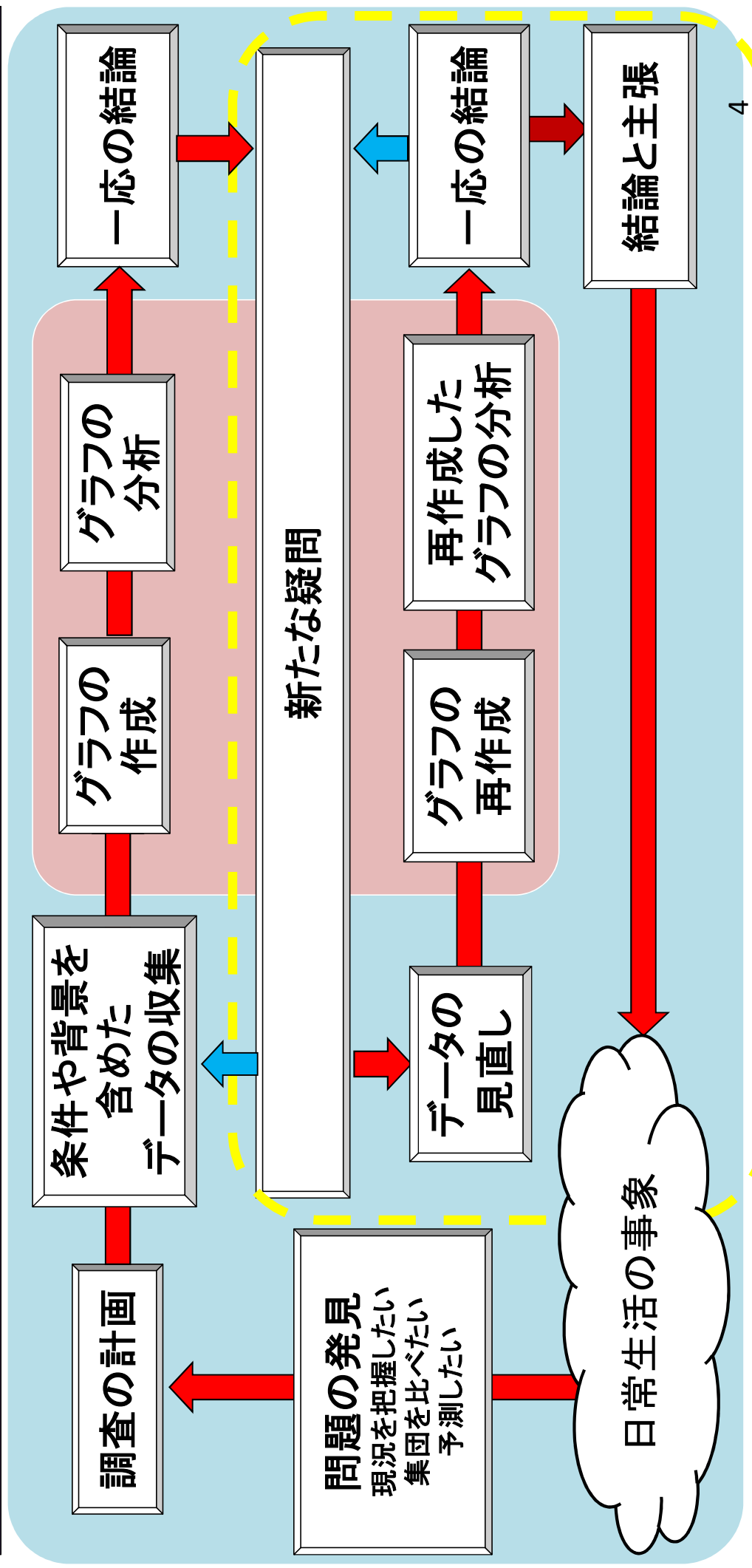
次の問題解決へ

算数・数学の内容を深める

※必ずしも一方通行の流れではない

日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に処理し、問題を解決することができる。

日常生活の事象について、データを収集しグラフにし分析することを繰り返して、物事の判断することができる。

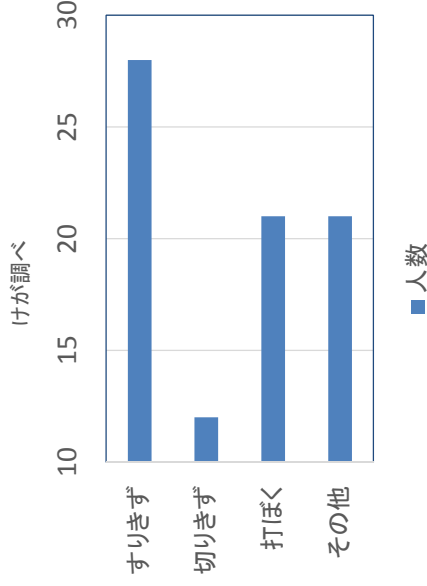


小学校 第3学年 棒グラフの学習の充実(案)

統計的手法を用いて出された結果を，批判的に考察する。

問題
現況を把握したい
どんなけがが
多いのだろうか

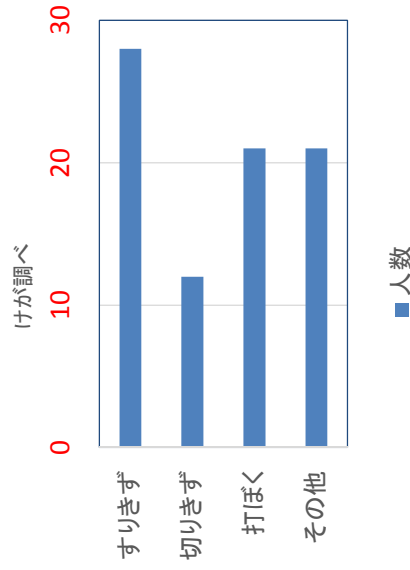
	人数
すりきず	28
切りきず	12
打ぼく	21
その他	21
合計	82



一応の結論
すりきずが多い。
切りきずがとて
少ない。

目盛りが0から始まっていないので，
切りきずが少なくなみえるだけ。

棒グラフでは，
目盛りを0から始
めないと，誤解を
生じることがあ
る。

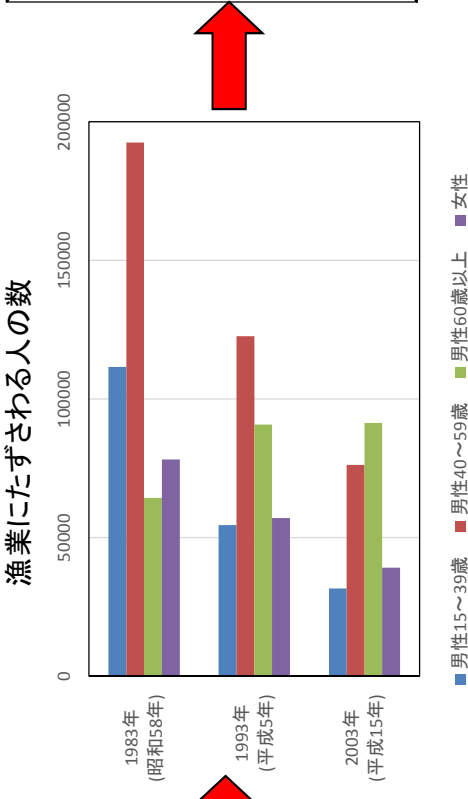


結論
すりきずが多い。
切りきずはとて
少ないわけではない。

小学校 第5学年 帯グラフの学習の充実(案)

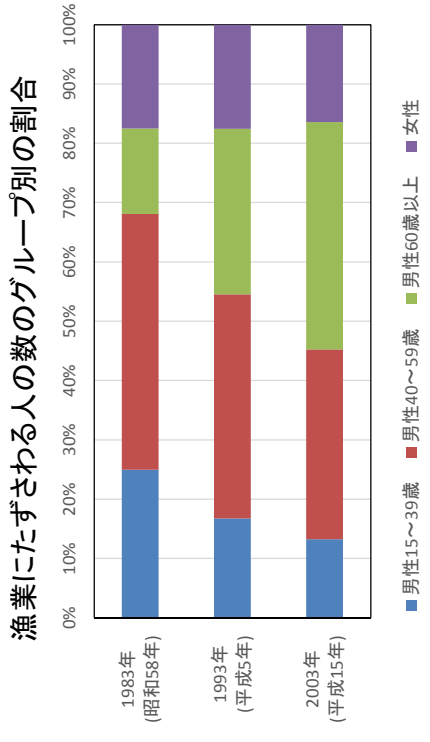
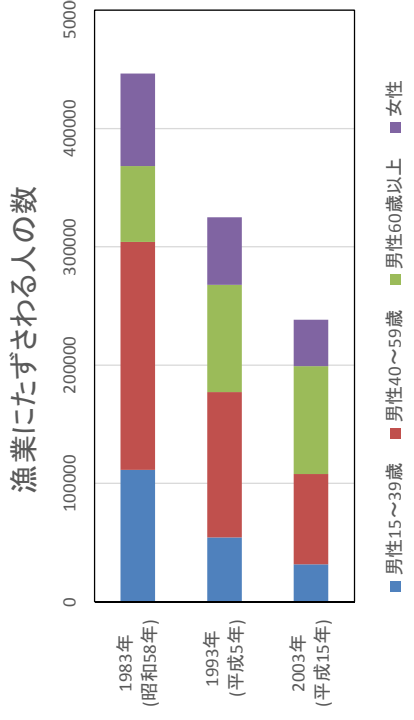
日常生活の事象について、データを収集しグラフにし分析することを繰り返して、物事の判断することができる。

問題
現況を把握したい
漁業に携わる人の内訳は、どのように変化したのだろうか。



一応の結論
1983年では男性40～59歳が一番多かったが、2003年は、男性60歳以上が一番多くなっている。

新たな疑問
全体の数はどのように変わったのだろうか。
グループ別の割合は、どのように変化したのだろうか。



平成19年度 全国学力・学習状況調査
小学校算数B 3「情報の選択と解釈」
ポケット農林水産統計平成7年度版
ポケット農林水産統計平成17年度版
による

中学校 第1学年 統計学習の充実(案)

日常生活の事象について、調査を行いデータを集めて表やグラフに表し、分布の傾向を把握し、問題解決することができる。

問題

現況を把握したい
学級のみんなが美しいと思う長方形にはどんな特徴があるのだろうか？



身の回りにある美しい長方形を探そう。

僕のノートは、約1.41倍になっていったよ。

教室のテレビ画面は、約1.78倍だね。

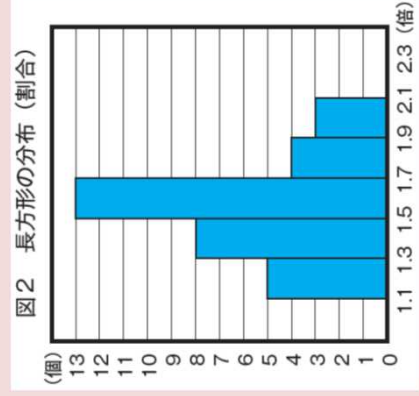
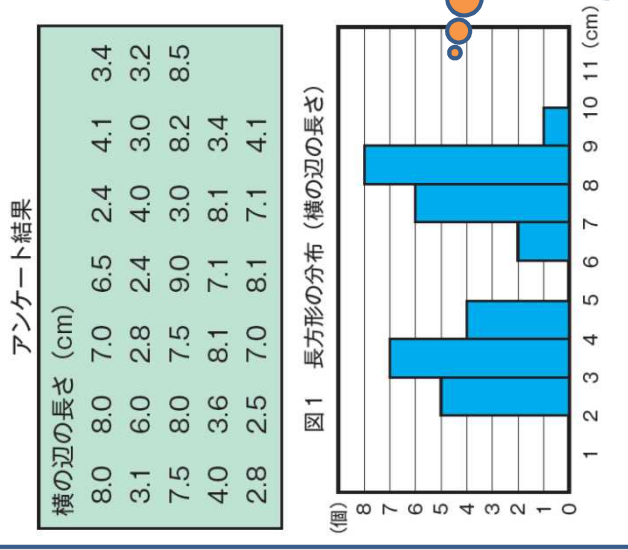
教室にある生徒用の机は、1.5倍。

美術の資料集にあるパルテノン神殿は、1.6倍くらいだったよ。

結論と主張

学級のみんなが美しいと思う長方形は、その短い辺に対する長い辺の長さの割合が1.5倍以上、1.7倍未満であるものが最も多い。

アンケートのお願い
下の線分を1辺として、美しいと思う長方形を1個かいてください。



グラフの再作成

ICTの活用

一応の結論

山が2つになって縦長と横長の長方形に分かれそうだ。

新たな疑問

縦長の長方形と、横長の長方形をまとめて、長い辺の長さが短い辺の長さの何倍かを求めて考えると何か特徴が見いだせないだろうか。

中学校 第1学年 統計学習の充実(案)

目的に応じて資料を整理し、分布の傾向を把握して意思決定することができる。

問題
次の1回でより遠くへ飛びそうな選手を選ぶとすると、あなたはどちらの選手を選びますか？

日常生活の事象

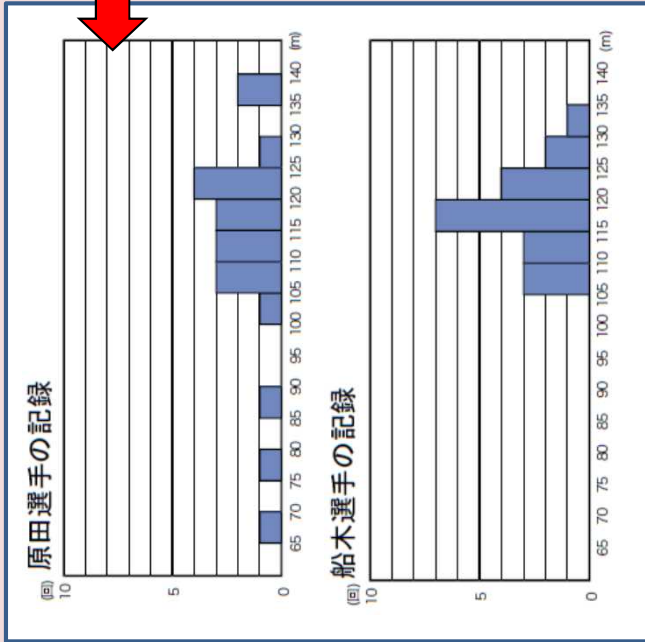
結論と主張

- ・130m以上の度数の合計は、原田選手は2で、船木選手の1より大きいので、僕は原田選手を選ぶ。
- ・船木選手の方が原田選手よりも範囲が小さく、最小値が大きいため私は船木選手を選びます。

原田選手 (m)		船木選手 (m)	
117.0	108.5	111.0	116.0
119.5	113.0	113.5	117.0
120.0	114.0	119.0	119.0
126.0	122.0	121.0	116.0
89.5	113.0	109.5	108.5
117.5	108.0	108.0	113.0
123.5	107.0	116.5	120.0
平均値 112.0m		平均値 117.7m	

ICTの活用

グラフの作成



グラフの解釈

一応の結論
平均値で判断するならば船木選手を選ば方がいいね。

新たな疑問
原田選手は137mで一番遠くへ飛んでいるときがあるよ。全体の分布の傾向はどうなっているのだろうか？

高等学校 数学「データの分析」

具体的な事象の考察を通して、分散・標準偏差などの指標を見いだす。

<問題>

数学の試験があり、第1回のクラスの平均点は60点で、Aさんの得点は70点であった。Aさんは第2回の試験では第1回より勉強を頑張ったが、結果は前回と同じくクラスの平均点が60点で、Aさんの得点は70点だった(下表)。

Aさんはこの結果に少しがっかりしているが、2つの試験の結果が次の通りであるとすると、Aさんの2つの試験におけるでき具合は同じと断言してもよいのだろうか。

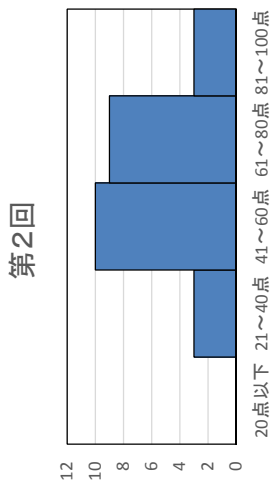
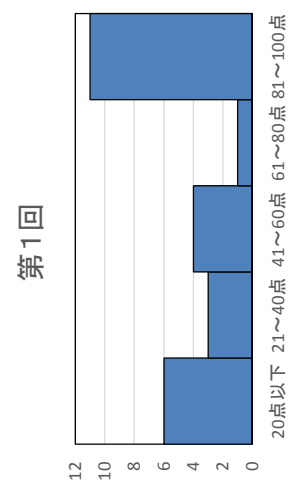
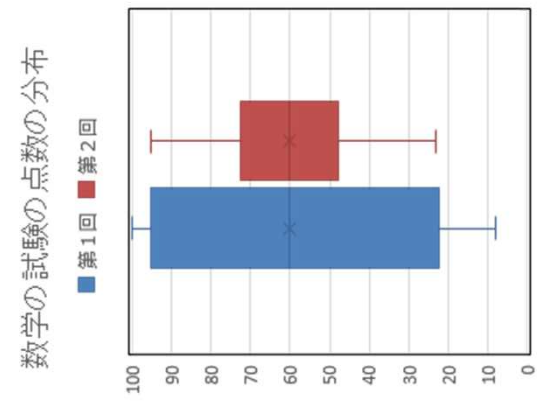
得点のいい方から並べると、Aさんの順位は上がっているのではないかな？

Aさんの得点もクラスの平均点も変わらなければ、あまり頑張りは認められないと思うな。

他の生徒の得点はどうなっているのかな？

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
第1回	11	31	88	96	100	97	25	16	8	42	54	94	99	99	70	48	13	60	89	93	100	20	18	38	91
第2回	42	53	62	82	95	73	47	41	23	50	58	72	80	76	70	55	40	61	63	60	92	49	38	52	66

ヒストグラムや箱ひげ図をかいてみると、第1回より第2回の方が得点の分布が小さくなっているようだ...



生徒の得点全体の分布の大きさをうまくとらえる指標を考えることはできないだろうか？



偏差

番号	1	2	3	4	5	...
第1回	-49	-29	28	36	40	...
第2回	-18	-7	2	22	35	...

偏差の平均は必ず0になるので
指標にならない。

偏差の 絶対値

番号	1	2	3	4	5	...
第1回	49	29	28	36	40	...
第2回	18	7	2	22	35	...

偏差の絶対値の平均は指標にできる
が、処理が面倒なところがある。



偏差の2乗の平均

番号	1	2	3	4	5	...
第1回	2401	841	784	1296	1600	...
第2回	324	49	4	484	1225	...

偏差の2乗の平均は、データの分布の大きさを表す使いやすい指標になる。

元のデータと次元を合わせるのに偏差の2乗の平均の正の平方根をとる。

$$\sigma = \sqrt{\frac{(x_1 - \bar{x})^2 + (x_2 - \bar{x})^2 + \dots + (x_n - \bar{x})^2}{n}}$$

* $[\bar{x} - \sigma, \bar{x} + \sigma]$,
 $[\bar{x} - 2\sigma, \bar{x} + 2\sigma]$,
 $[\bar{x} - 3\sigma, \bar{x} + 3\sigma]$ の
 範囲にそれぞれ
 どの程度のデー
 タが含まれるか、
 を確認したい。